

小規模企業景気動向調査 [2025年5月期調査]

～物価高に苦しみ廃業懸念が強まる中、支援を求める声が広がる小規模企業景況～

<産業全体>

5月期の産業全体の景況は、売上額DIがわずかに低下し、採算・資金繰り・業況DIはわずかに上昇した。売上額DI以外は緩やかな回復を見せたが、前年ベースではマイナスで推移しており、回復基調にはなお時間を要する。物価高騰をはじめとする経営上の課題により、廃業検討の声も多くあることから、国や自治体による抜本的な小規模企業支援を求める。

	DI	4月	5月	前月比	前年 同月比
売上額		3.6	2.9	▲ 0.7	▲ 2.0
採算	▲	20.2	▲ 19.2	1.0	▲ 2.0
資金繰り	▲	16.8	▲ 15.7	1.1	▲ 1.0
業況	▲	17.5	▲ 16.8	0.7	▲ 4.9

<製造業(食料品、繊維、機械・金属)>外部環境に対する不安と挑戦が交錯する製造業

製造業は、売上額DIが小幅に上昇、採算・資金繰りDIはわずかに上昇し、業況DIは不変であった。食料品関連は、依然として原材料費やエネルギーコスト高に苦しむ声が多い。繊維関連は、季節要因により受注が伸び悩み、売上や採算が悪化した。機械・金属関連は、前月比での改善は見られたが、関税政策による先行き不安の声は続いている。一方で、一部事業所では新分野進出に取り組むなど、前向きな姿勢も確認された。

	DI	4月	5月	前月比	前年 同月比
売上額		2.7	4.8	2.1	▲ 3.5
採算	▲	23.7	▲ 21.8	1.9	▲ 5.7
資金繰り	▲	17.9	▲ 16.2	1.7	0.4
業況	▲	21.4	▲ 21.8	▲ 0.4	▲ 8.5

<建設業>前年同月からは改善が見られるも、依然として人材確保が急務な建設業

建設業は、売上額がわずかに低下、資金繰り・業況DIはわずかに上昇し、採算DIは不変であった。前年同月比では、全てのDIが上昇。コロナ禍の影響が落ち着いたことによる受注件数の増加が一部で報告されたが、慢性的な人手不足に伴い外注への依存度が高まり、採算が取れない状況が続いている。廃業する事業所も散見される中、企業存続の為、人材確保や育成等の取り組みが急がれる。

	DI	4月	5月	前月比	前年 同月比
売上額		7.0	5.5	▲ 1.5	8.1
採算	▲	16.9	▲ 17.1	▲ 0.2	4.8
資金繰り	▲	17.1	▲ 15.6	1.5	2.8
業況	▲	14.9	▲ 13.7	1.2	2.1

<小売業(衣料品、食料品、耐久消費財)>全業種のうち、唯一全DIがマイナス値となった小売業

小売業は、売上額DIが小幅に低下、資金繰り・業況DIはわずかに上昇し、採算DIは不変であった。衣料品関連・食料品関連ともに物価高騰による買い控えの影響が目立つ結果となった。特に衣料品関連は、売上高DIが前年同月比で約10ポイント低下、食料品関連は米の不足や高騰の影響に関する声も多く、前月からマイナス推移となった。耐久消費財関連は、仕入価格の上昇に対し価格転嫁が進まず、採算に影響があるとの声も聞かれた。

	DI	4月	5月	前月比	前年 同月比
売上額		0.0	▲ 2.3	▲ 2.3	▲ 1.7
採算	▲	25.6	▲ 25.7	▲ 0.1	▲ 3.5
資金繰り	▲	21.1	▲ 20.4	0.7	▲ 2.1
業況	▲	24.7	▲ 22.8	1.9	▲ 5.4

<サービス業(旅館、クリーニング、理・美容)>業種間格差と、地方の苦戦が続くサービス業

サービス業は、売上額DIがわずかに低下、採算DIは小幅に上昇し、資金繰り・業況DIは不変であった。売上額について、業界としては前年ベースで大幅に低下したが、旅館関連の売上にけん引され、5月DIとしてはプラスを維持。クリーニング関連は、仕入や水道・電気料金高騰の影響から、肯定的な声は少ない。理・美容関連は、引き続き地方での人口や利用頻度の減少から、売上が伸び悩んでおり、廃業を検討する事業所も多い。

	DI	4月	5月	前月比	前年 同月比
売上額		5.0	3.3	▲ 1.7	▲ 11.1
採算	▲	14.7	▲ 12.5	2.2	▲ 3.7
資金繰り	▲	11.0	▲ 10.6	0.4	▲ 5.1
業況	▲	9.1	▲ 8.8	0.3	▲ 7.9

調査概要

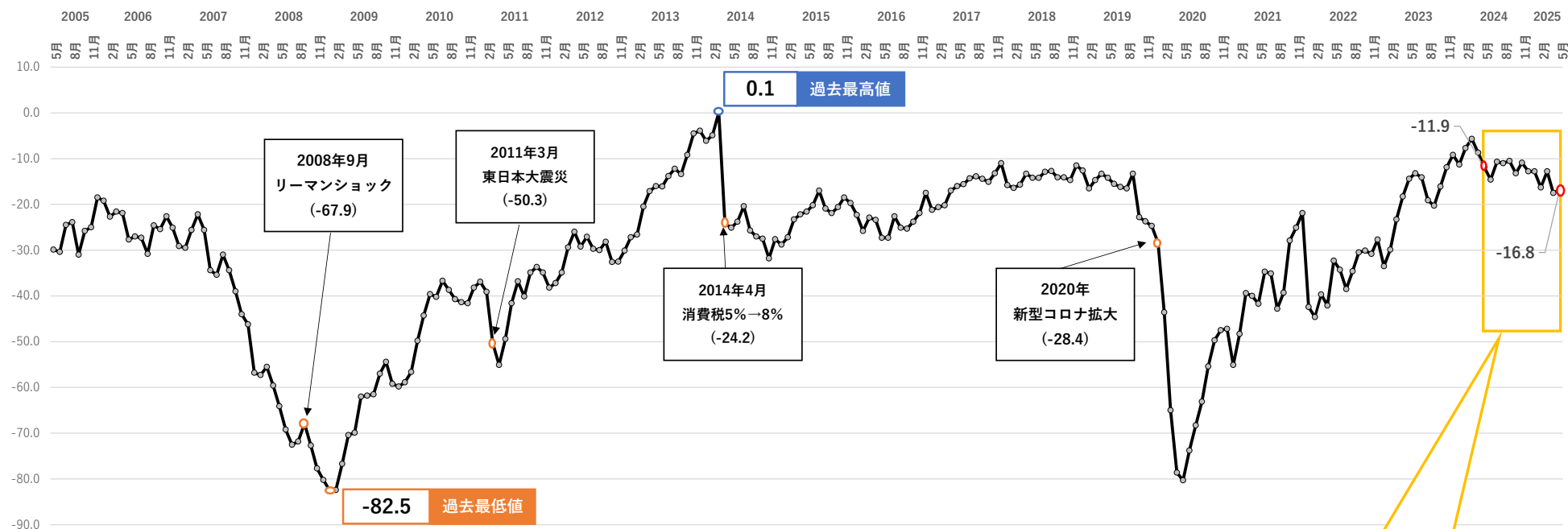
・調査対象: 全国 303 商工会の経営指導員(有効回答数: 250/回答率 82.5%)

・調査時点: 2025 年 5 月末

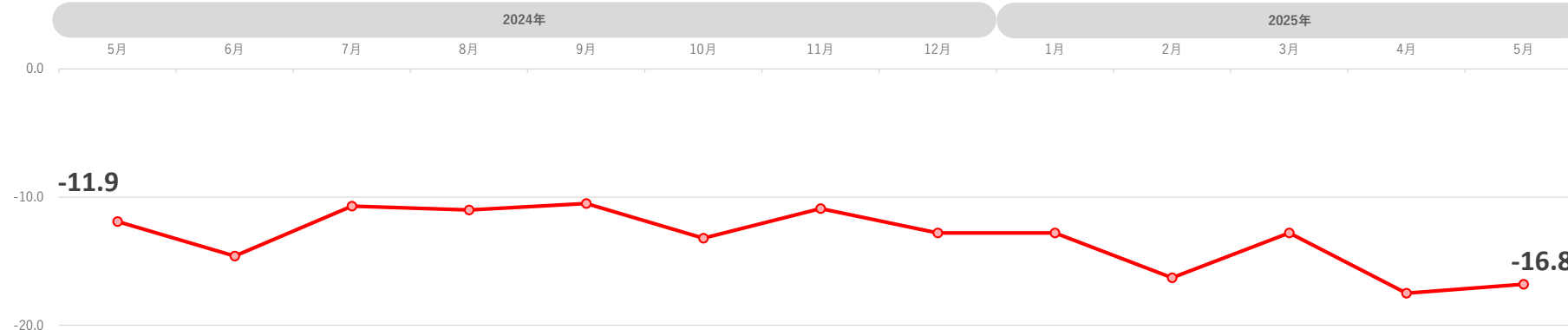
・調査方法: 対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※ DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

小規模企業景気動向調査 産業全体の業況DIグラフ～過去20年のトレンド～



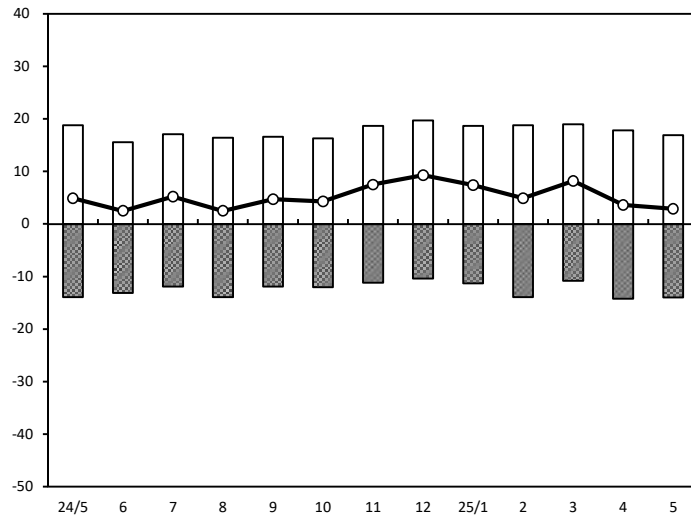
産業全体の業況DIグラフ～直近1年間～



小規模企業景気動向調査(2025年5月期)

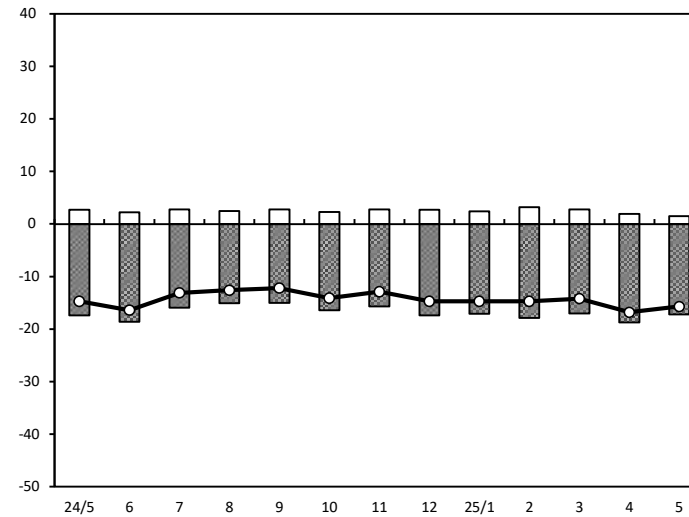
産 業 全 体(前年同月比)

売上額



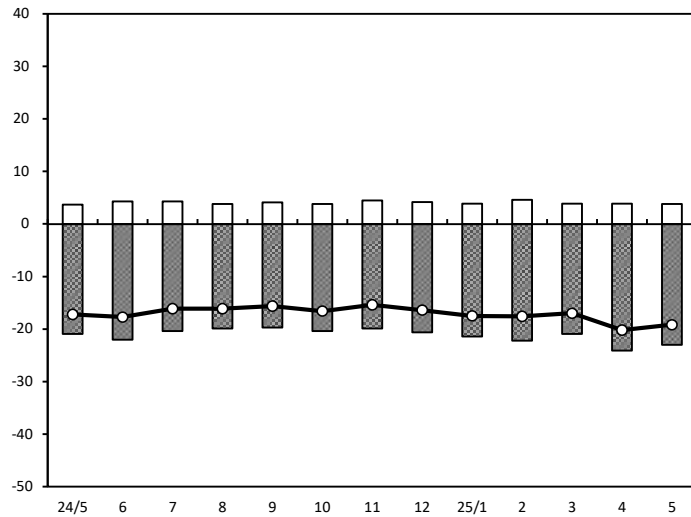
(年月)

資金繰り



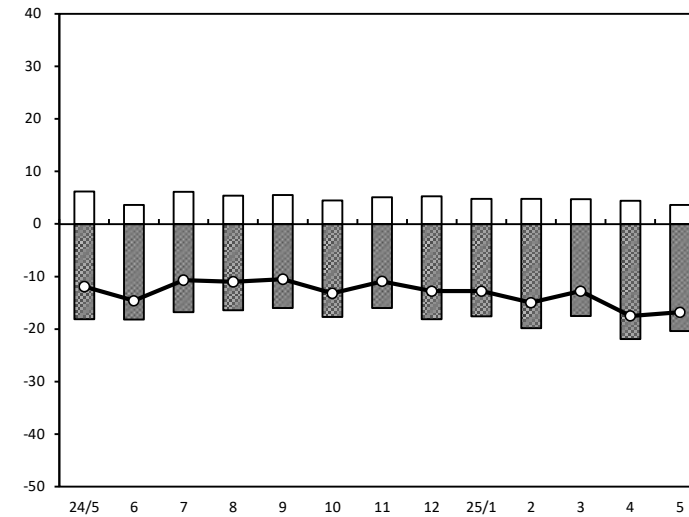
(年月)

採算



(年月)

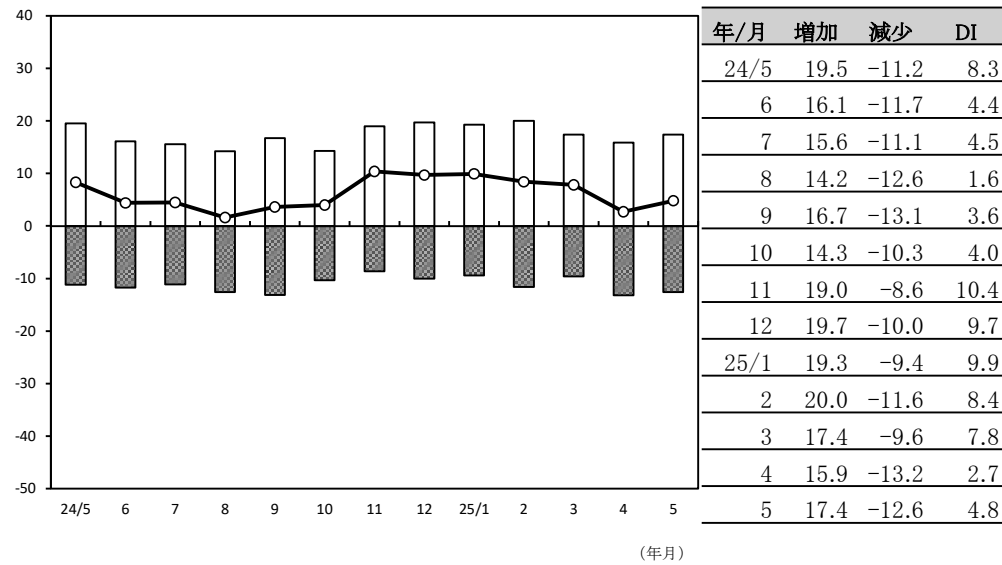
業界の業況



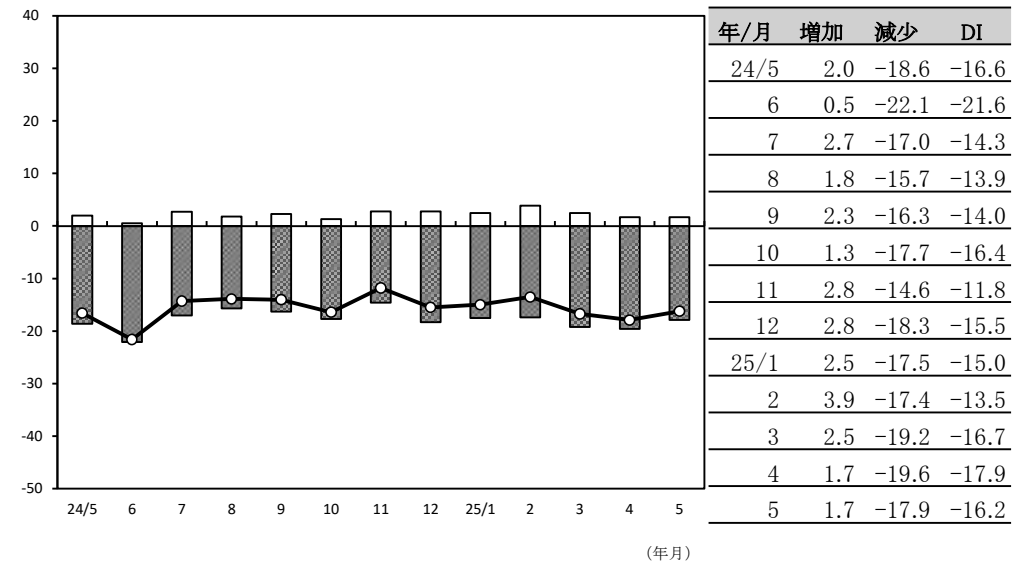
(年月)

製 造 業(前年同月比)

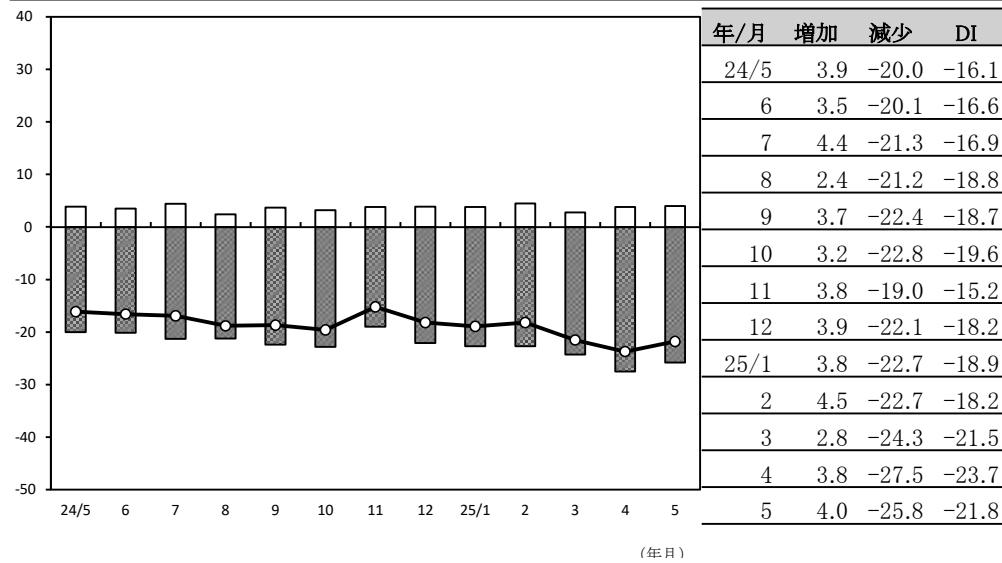
売上額



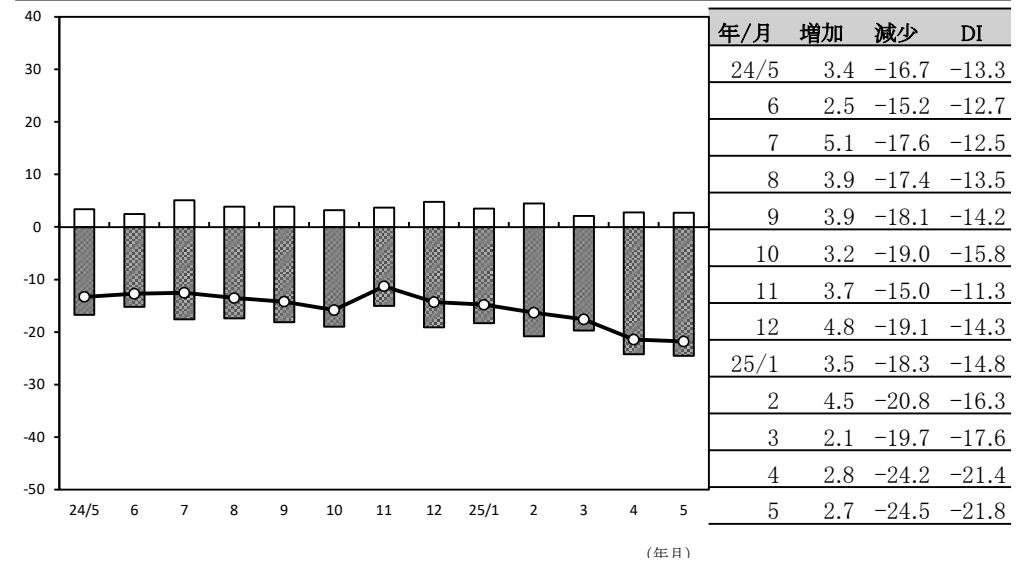
資金繰り



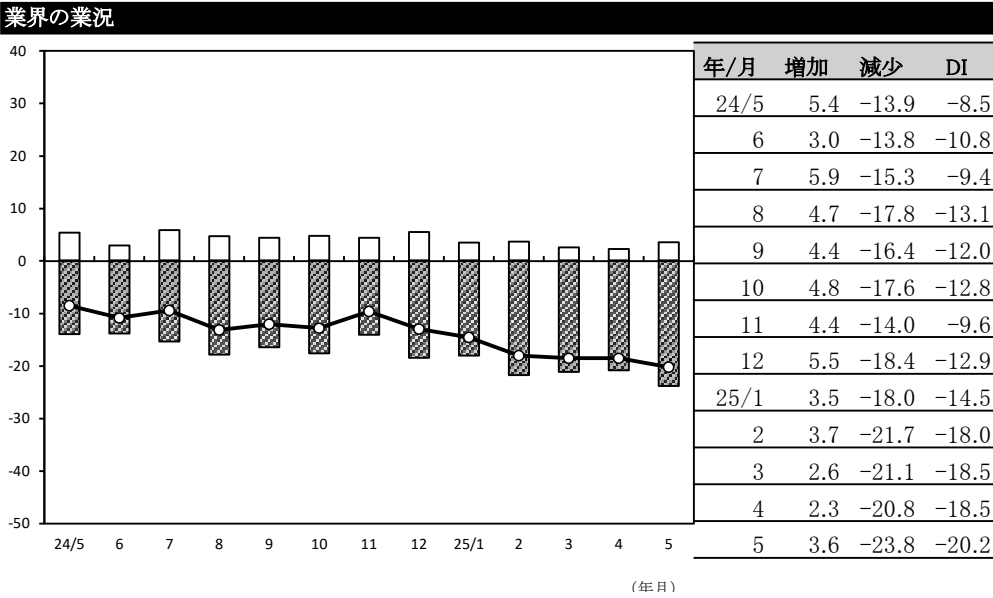
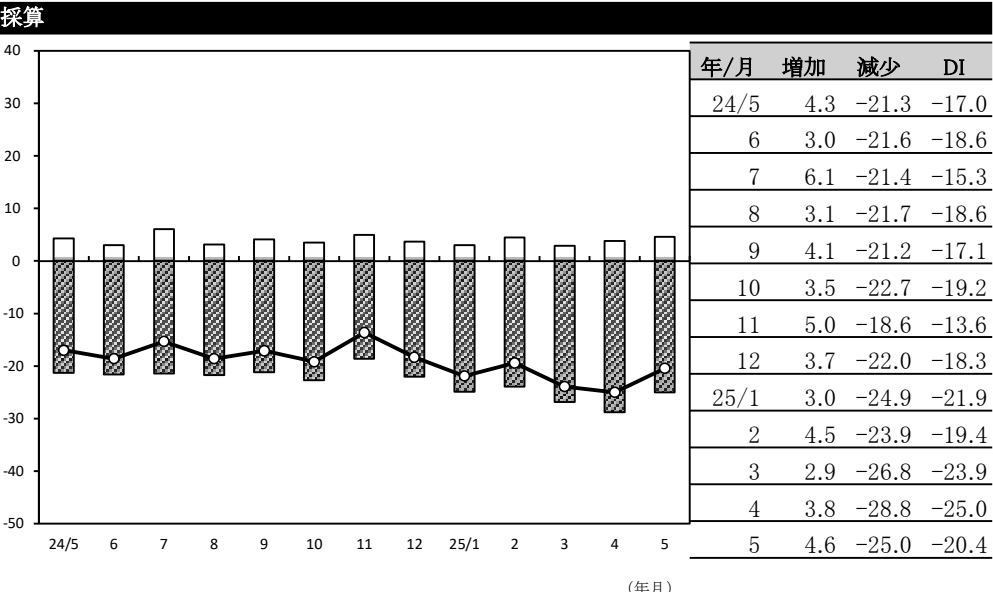
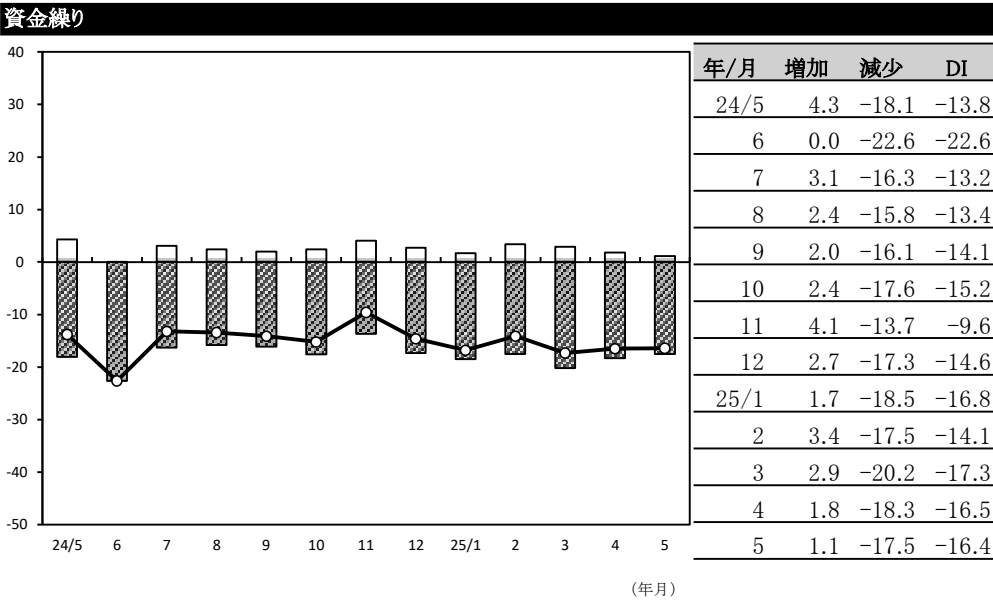
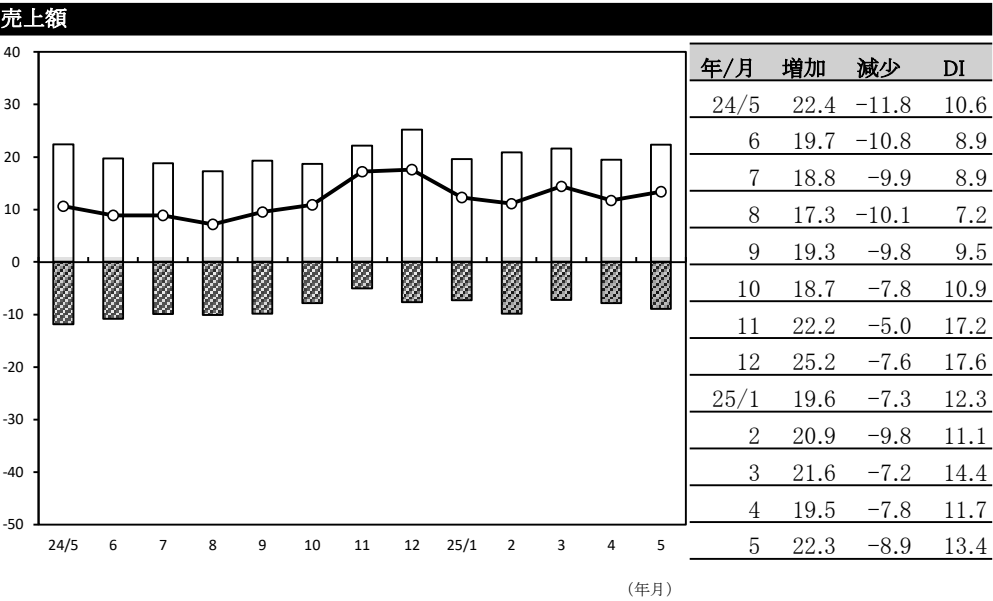
採算



業界の業況

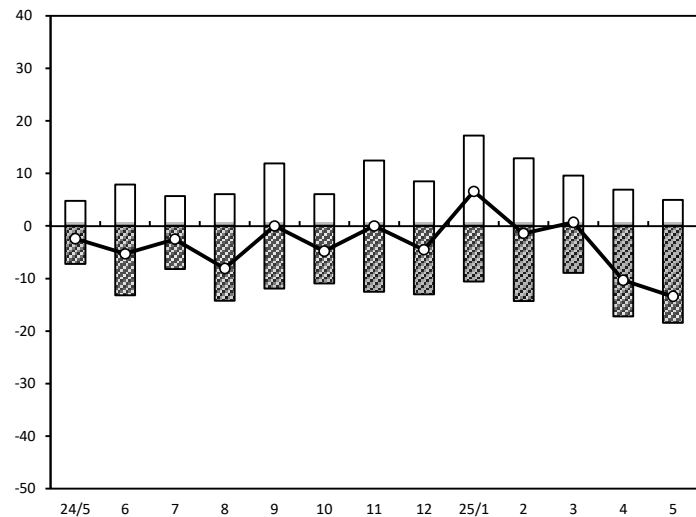


製 造 業【食料品】（前年同月比）



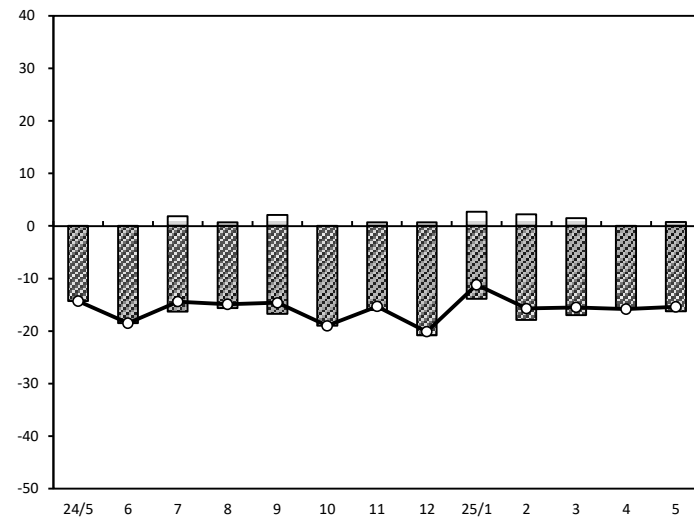
製 造 業【繊維】（前年同月比）

売上額



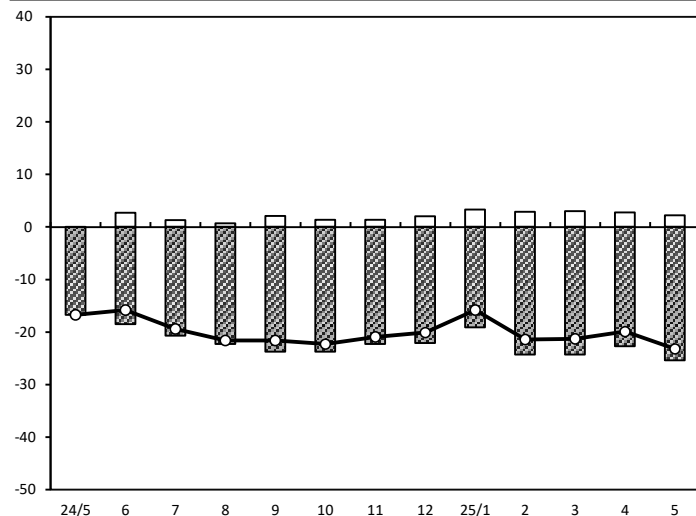
（年月）

資金繰り



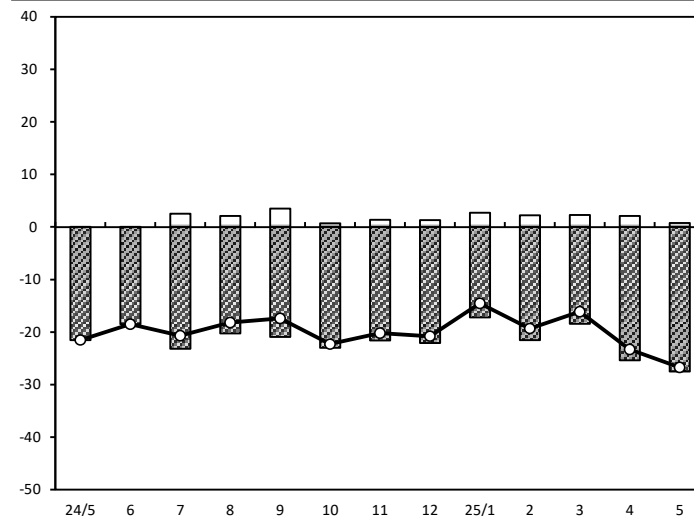
（年月）

採算



（年月）

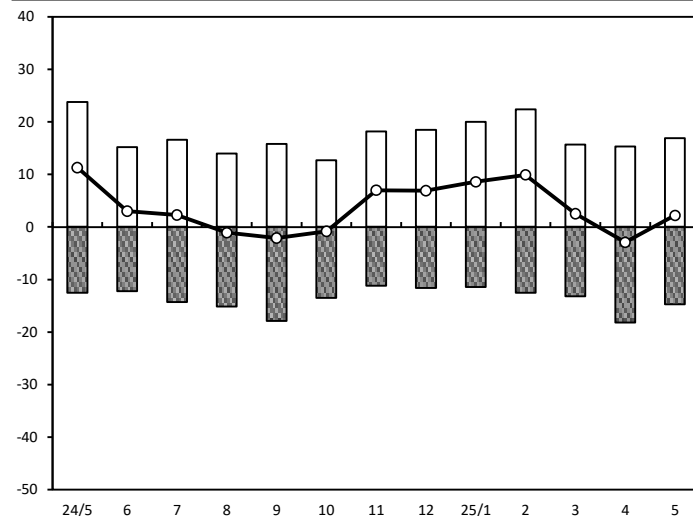
業界の業況



（年月）

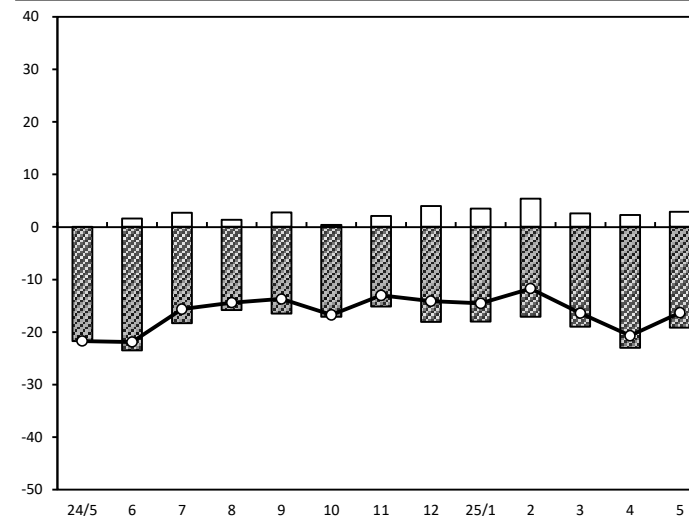
製 造 業【機械・金属】（前年同月比）

売上額



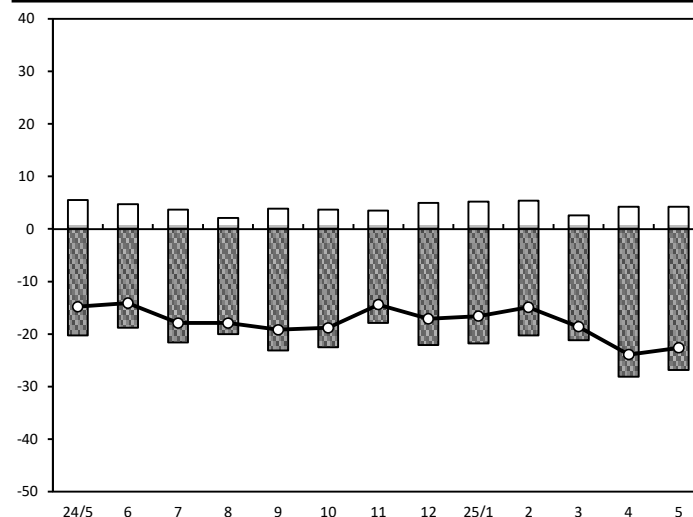
（年月）

資金繰り



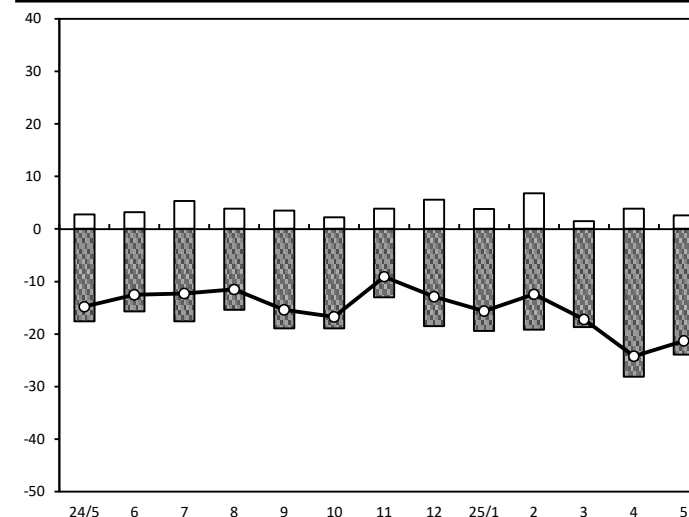
（年月）

採算



（年月）

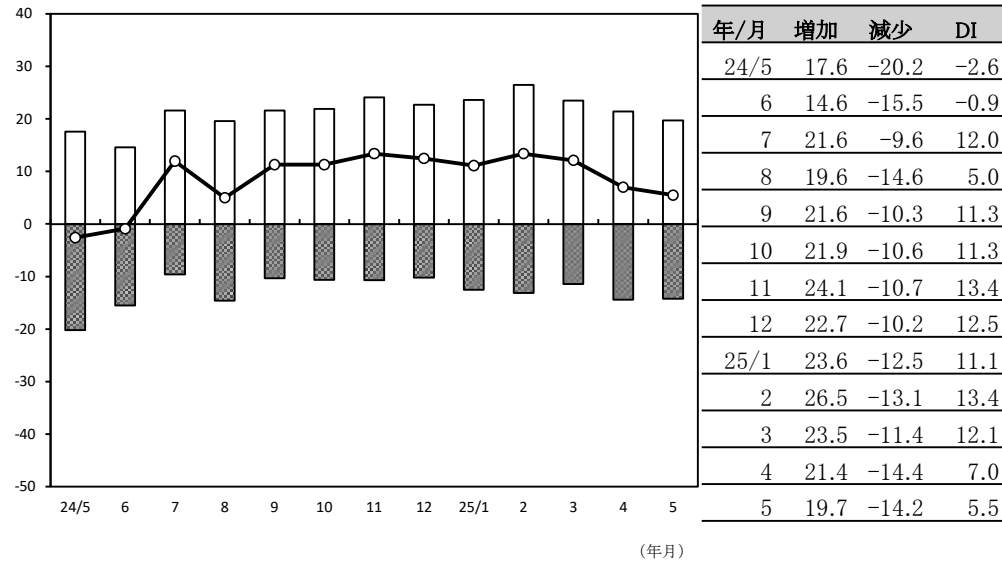
業界の業況



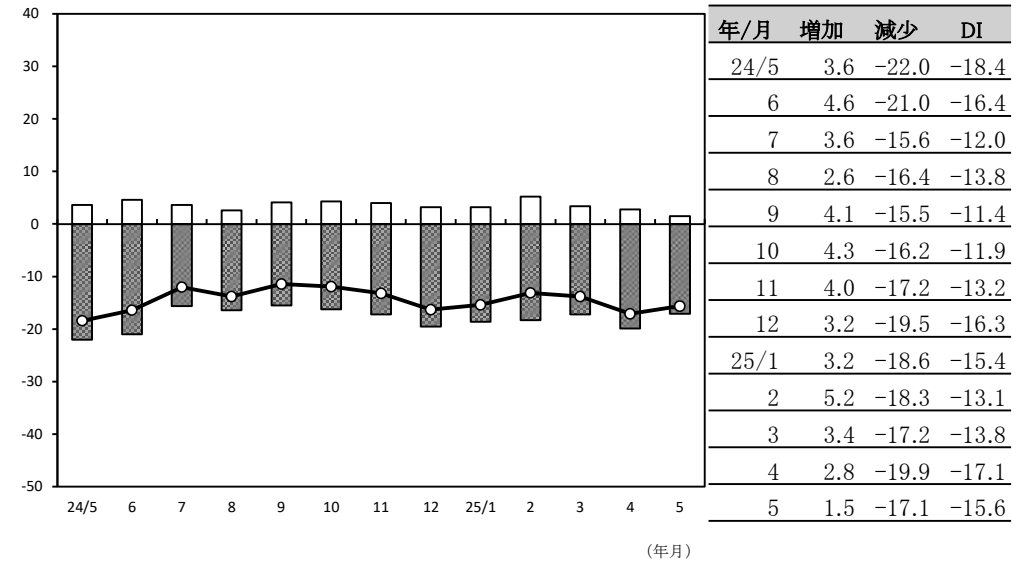
（年月）

建設業(前年同月比)

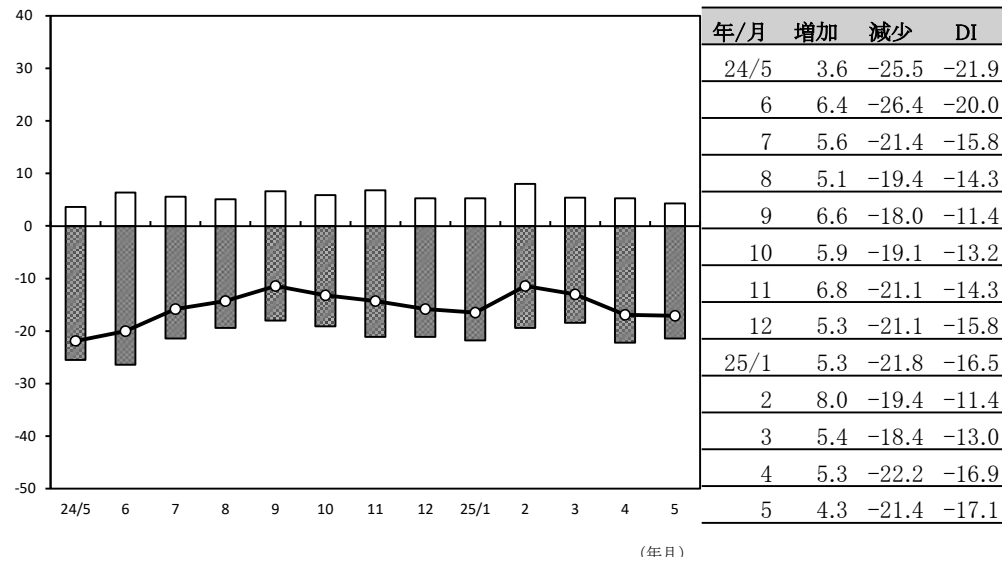
売上額



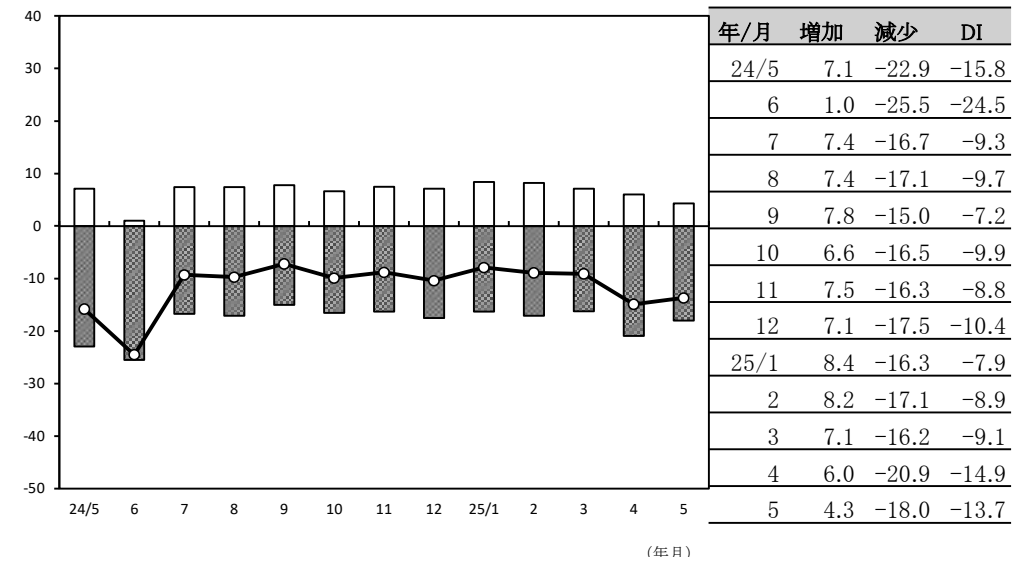
資金繰り



採算

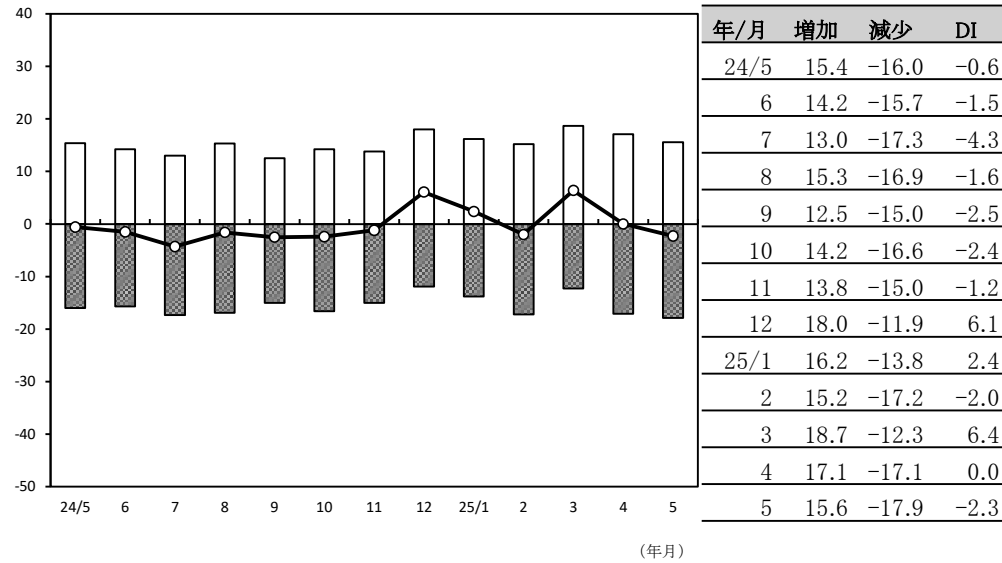


業界の業況

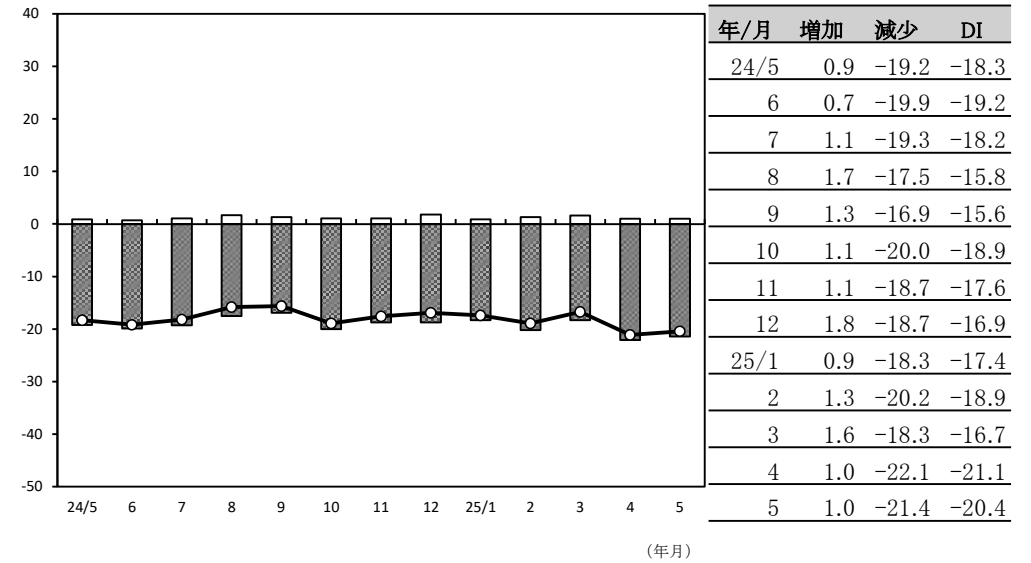


小 売 業(前年同月比)

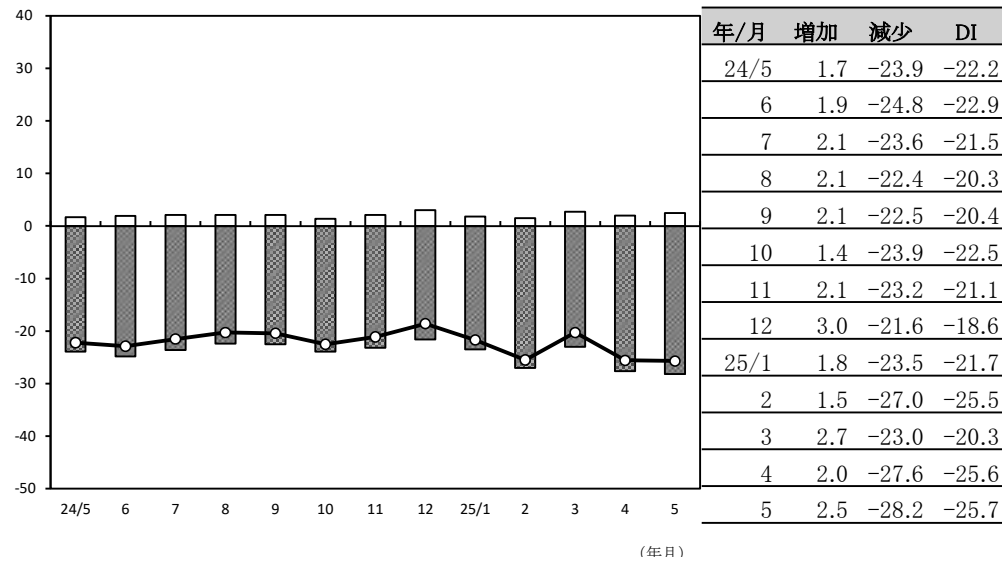
売上額



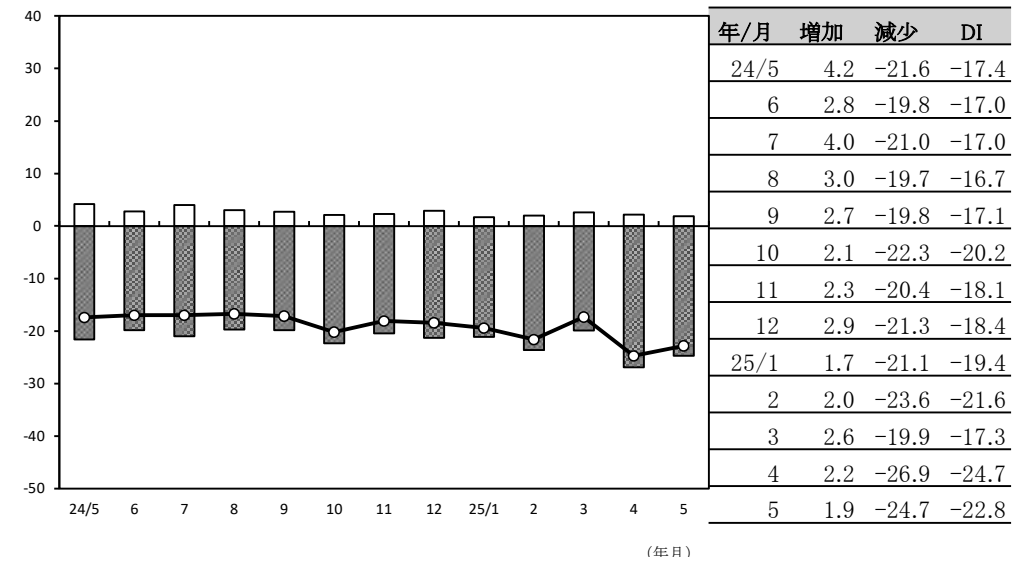
資金繰り



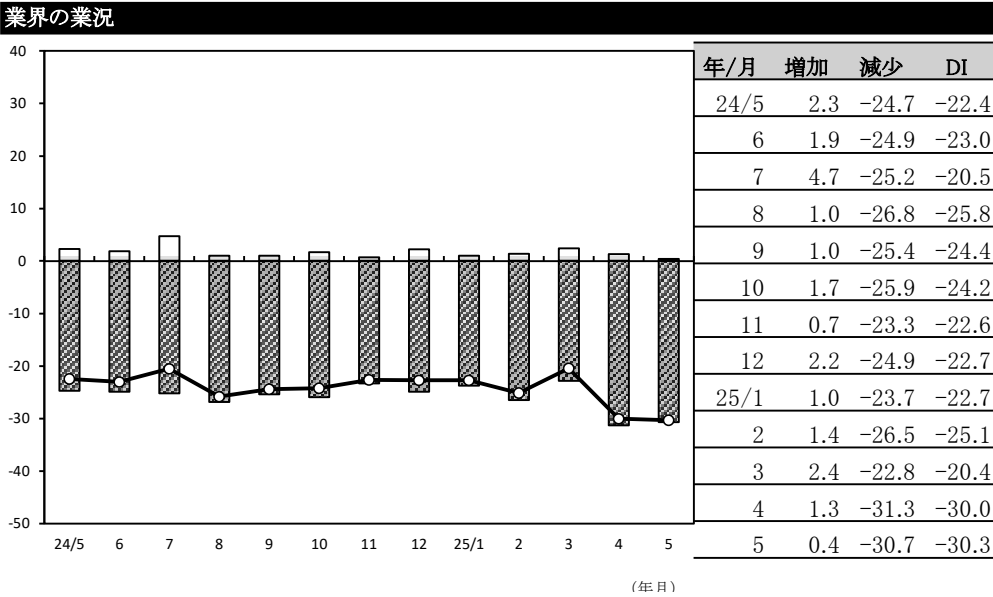
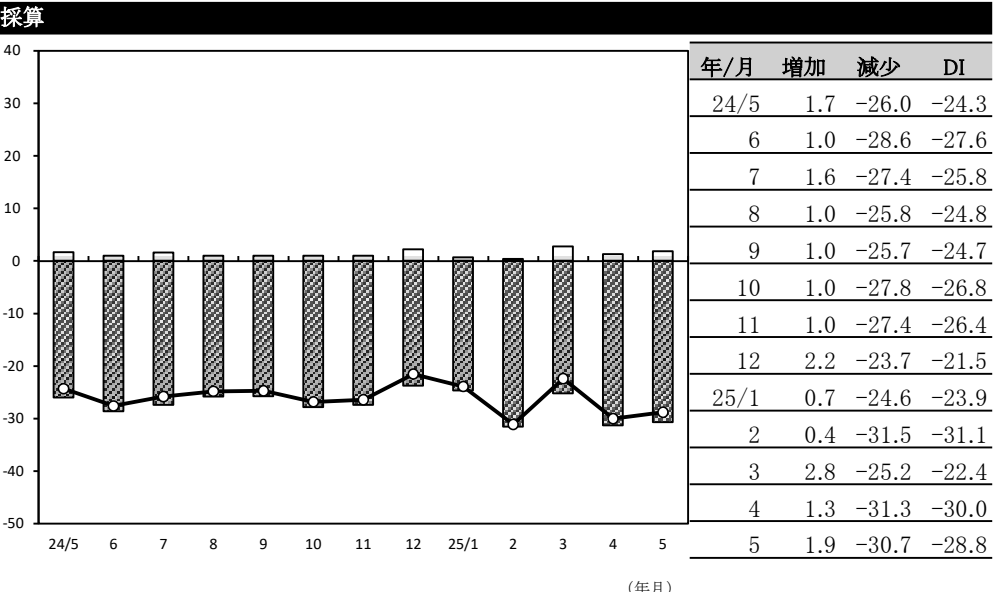
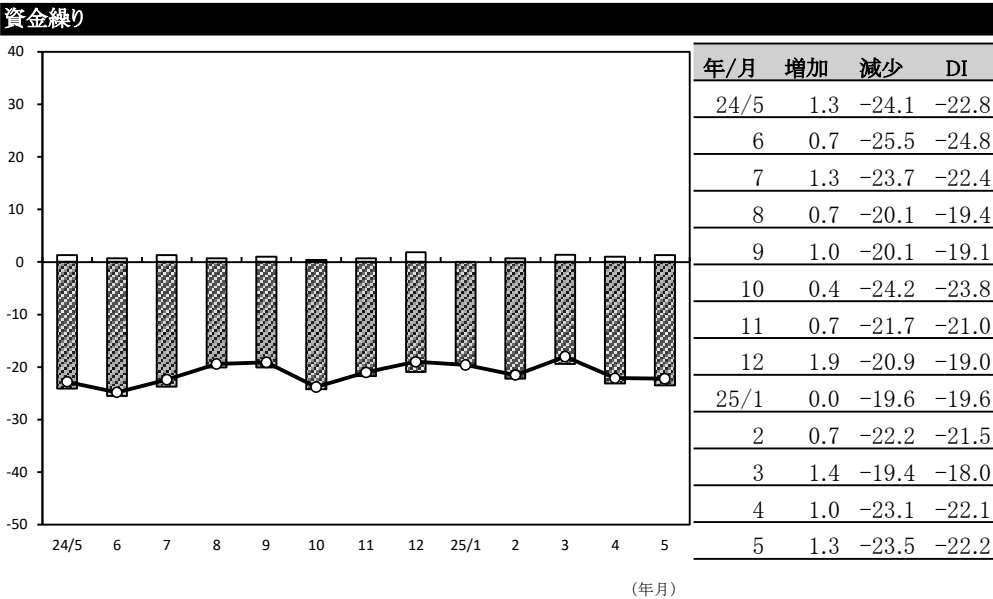
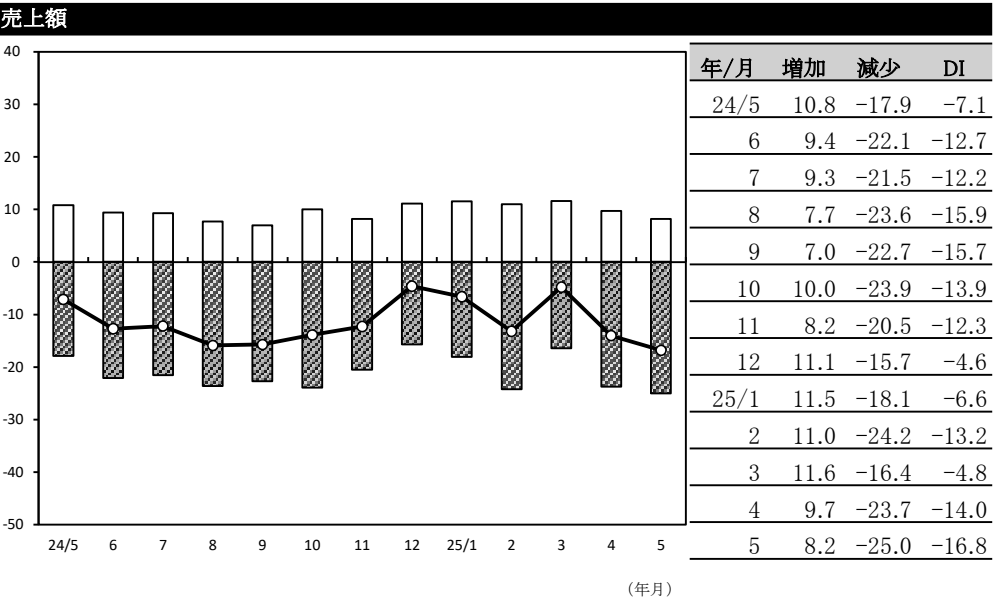
採算



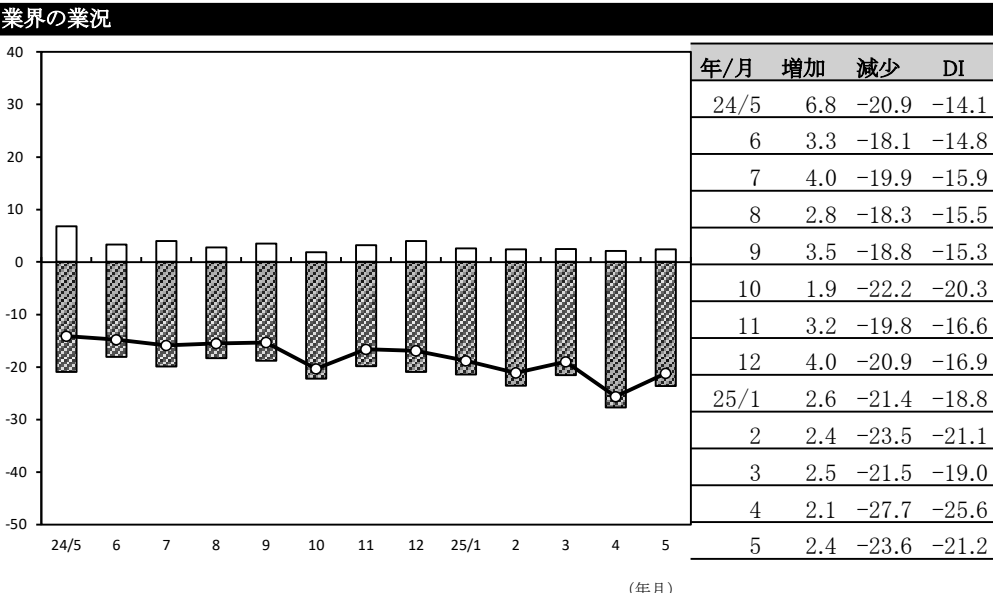
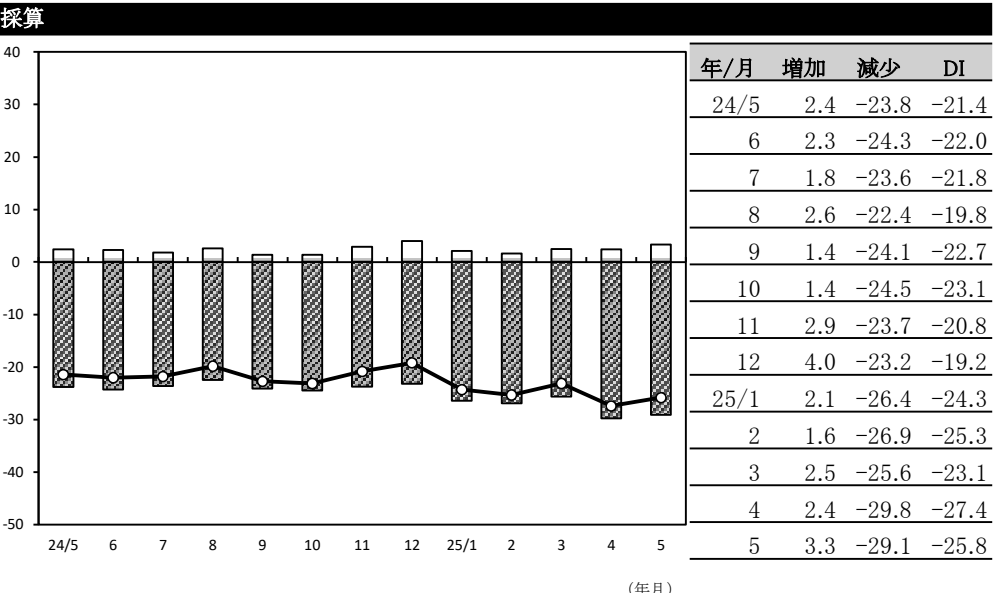
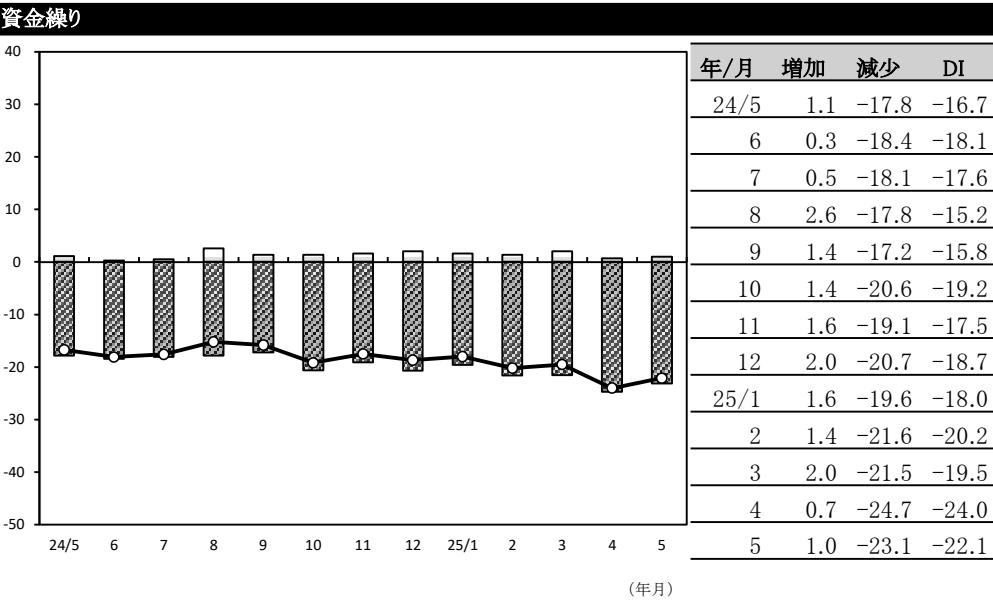
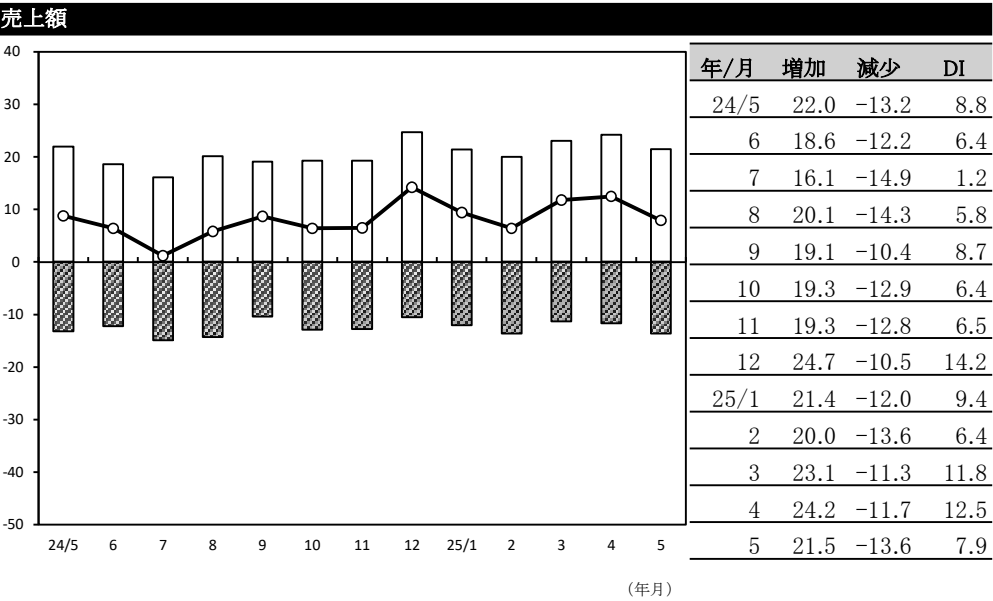
業界の業況



小 売 業【衣料品】（前年同月比）

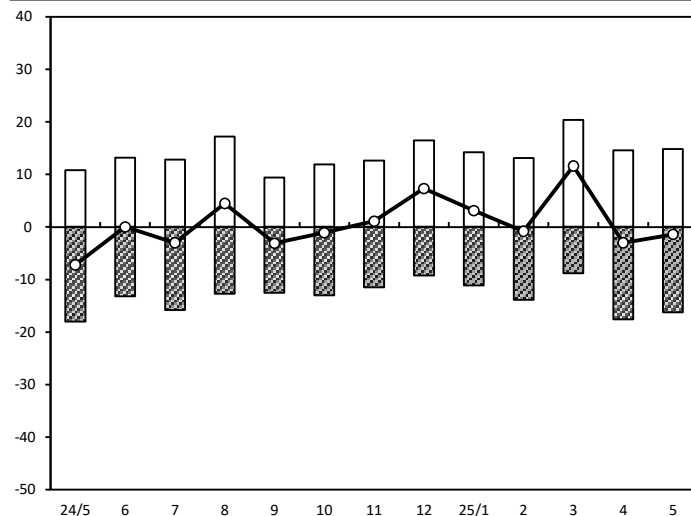


小 売 業【食料品】（前年同月比）



小 売 業【耐久消費財】（前年同月比）

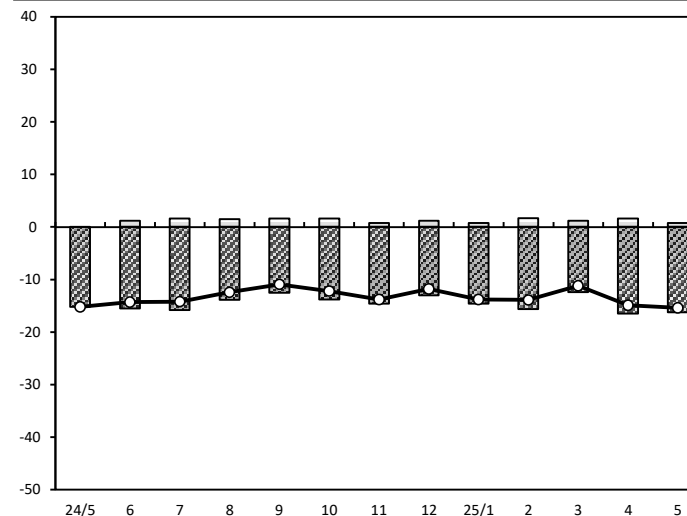
売上額



年/月	増加	減少	DI
24/5	10.8	-18.0	-7.2
6	13.2	-13.2	0.0
7	12.8	-15.8	-3.0
8	17.2	-12.7	4.5
9	9.4	-12.5	-3.1
10	11.9	-13.0	-1.1
11	12.6	-11.5	1.1
12	16.5	-9.2	7.3
25/1	14.2	-11.1	3.1
2	13.1	-13.9	-0.8
3	20.4	-8.8	11.6
4	14.6	-17.6	-3.0
5	14.8	-16.2	-1.4

(年月)

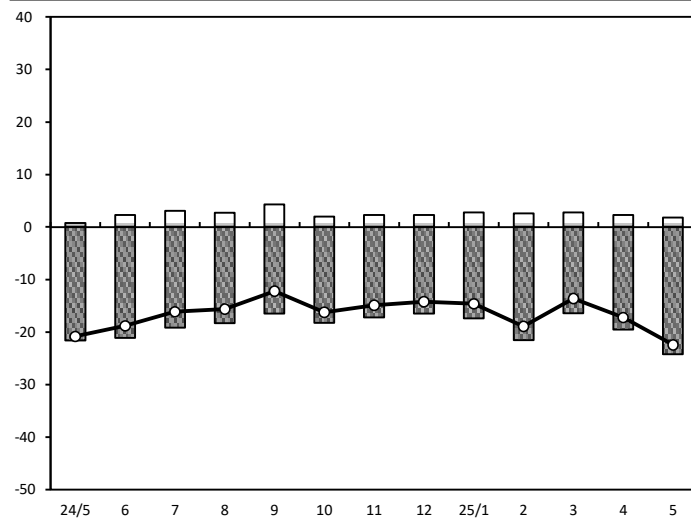
資金繰り



年/月	増加	減少	DI
24/5	0.0	-15.2	-15.2
6	1.2	-15.5	-14.3
7	1.6	-15.8	-14.2
8	1.5	-13.9	-12.4
9	1.6	-12.5	-10.9
10	1.6	-13.8	-12.2
11	0.8	-14.6	-13.8
12	1.2	-13.0	-11.8
25/1	0.8	-14.6	-13.8
2	1.7	-15.6	-13.9
3	1.2	-12.4	-11.2
4	1.6	-16.5	-14.9
5	0.8	-16.2	-15.4

(年月)

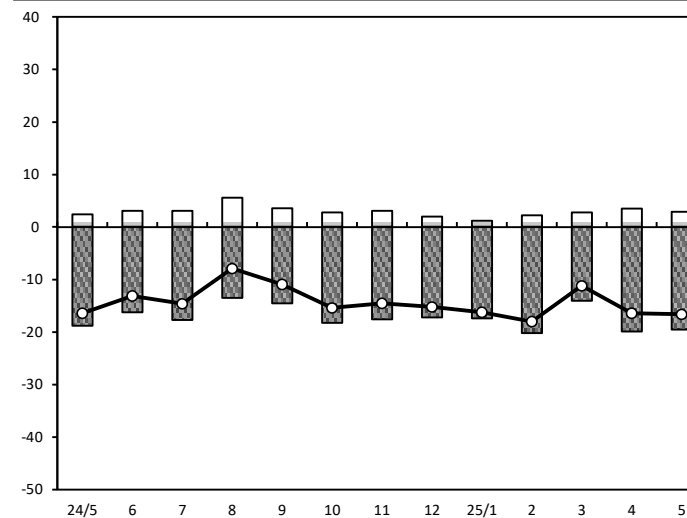
採算



年/月	増加	減少	DI
24/5	0.8	-21.6	-20.8
6	2.3	-21.1	-18.8
7	3.1	-19.2	-16.1
8	2.7	-18.3	-15.6
9	4.3	-16.5	-12.2
10	2.0	-18.2	-16.2
11	2.3	-17.2	-14.9
12	2.3	-16.5	-14.2
25/1	2.8	-17.4	-14.6
2	2.6	-21.5	-18.9
3	2.8	-16.4	-13.6
4	2.3	-19.5	-17.2
5	1.8	-24.2	-22.4

(年月)

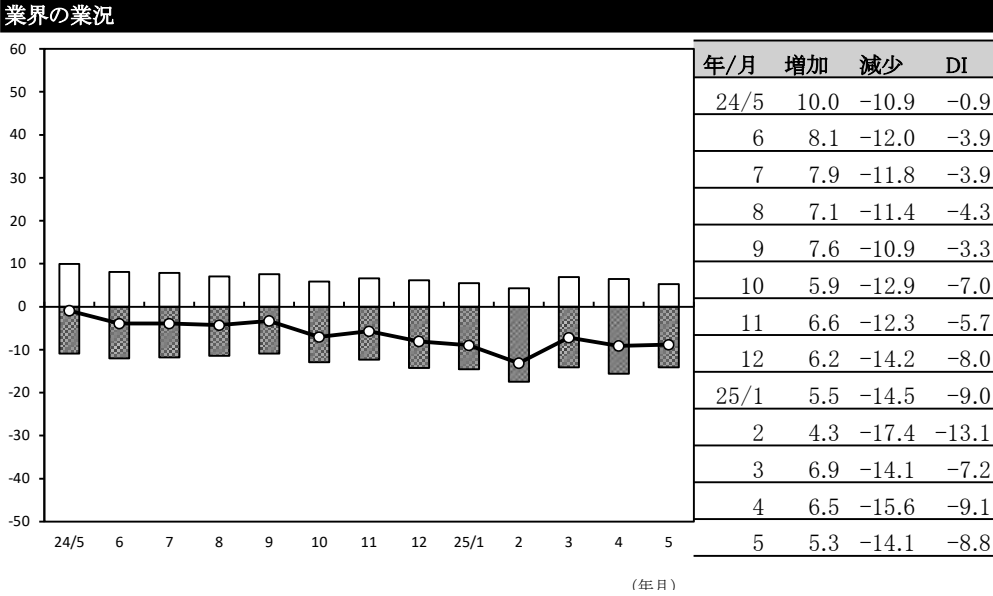
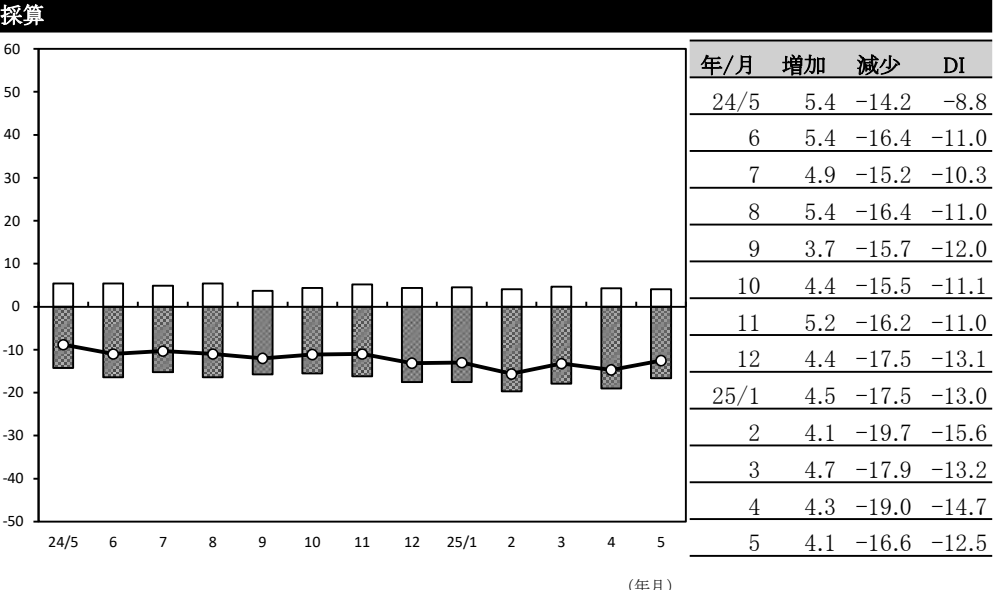
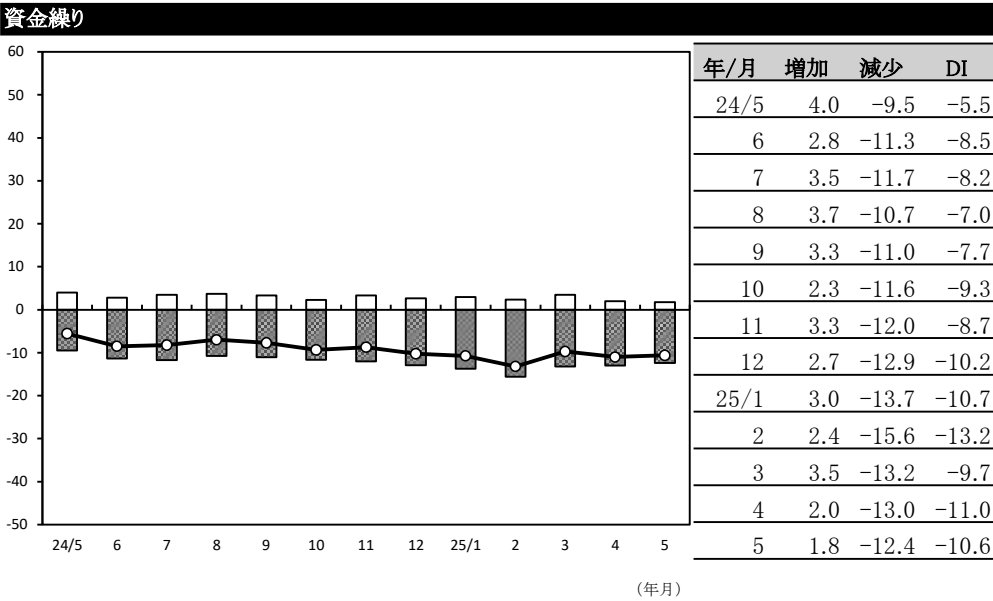
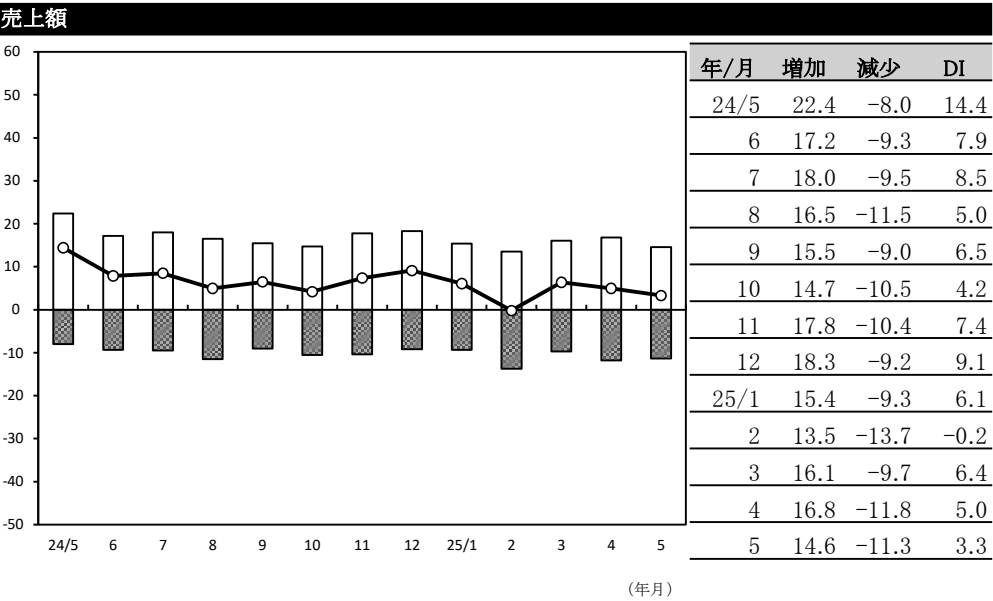
業界の業況



年/月	増加	減少	DI
24/5	2.4	-18.8	-16.4
6	3.1	-16.2	-13.1
7	3.1	-17.7	-14.6
8	5.6	-13.5	-7.9
9	3.6	-14.5	-10.9
10	2.8	-18.2	-15.4
11	3.1	-17.6	-14.5
12	2.0	-17.2	-15.2
25/1	1.2	-17.4	-16.2
2	2.2	-20.2	-18.0
3	2.8	-14.0	-11.2
4	3.5	-19.9	-16.4
5	2.9	-19.5	-16.6

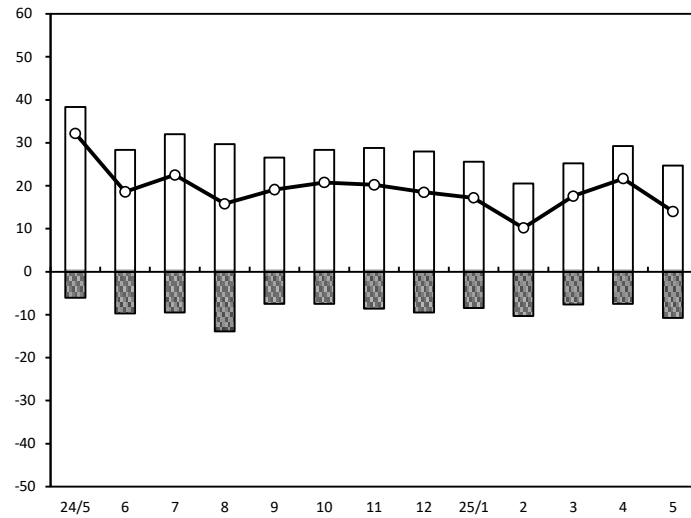
(年月)

サービス業(前年同月比)



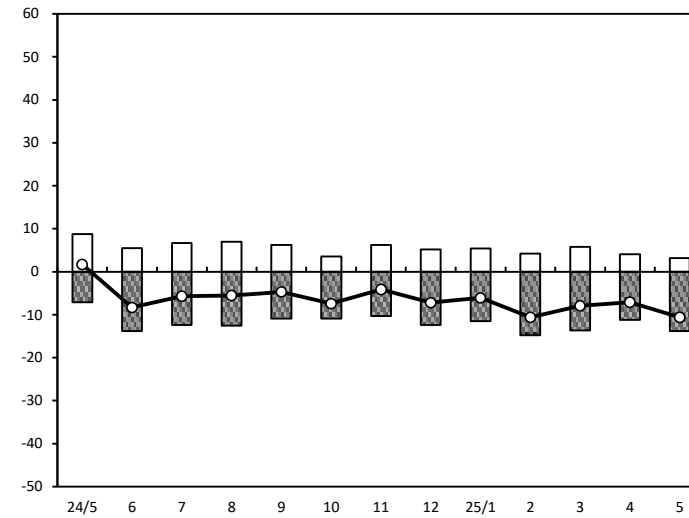
サービス業【旅館】（前年同月比）

売上額



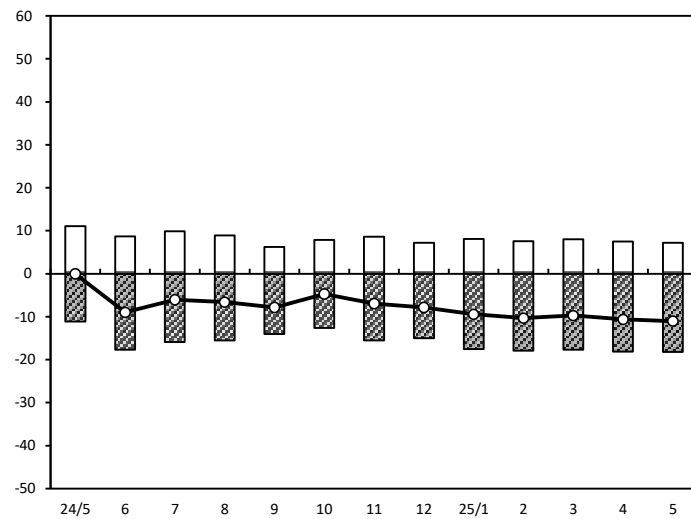
（年月）

資金繰り



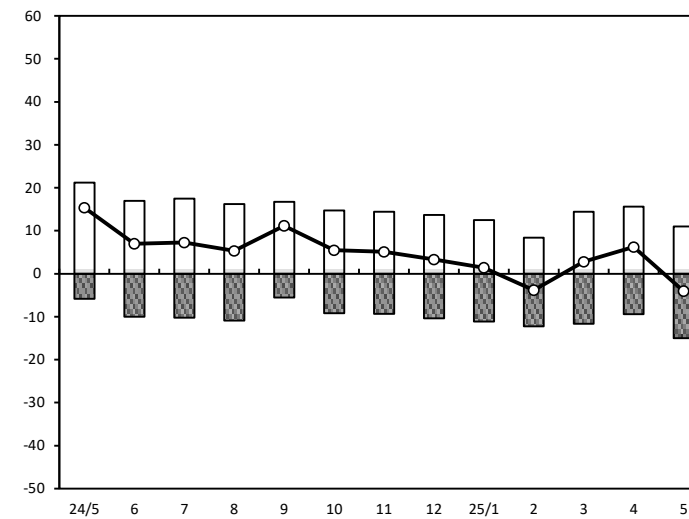
（年月）

採算



（年月）

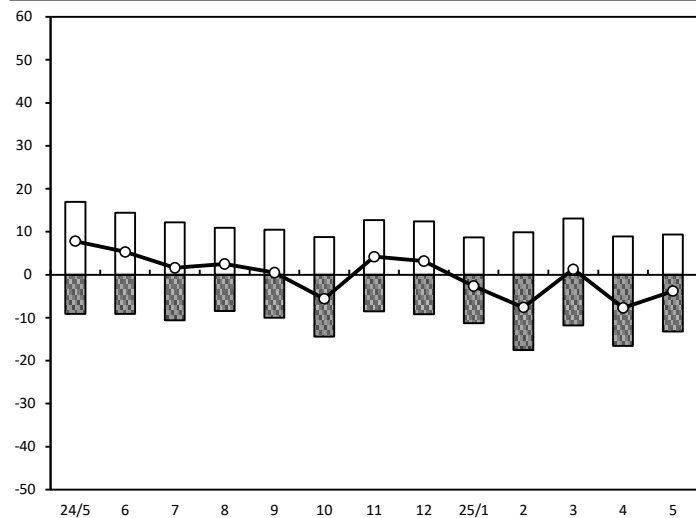
業界の業況



（年月）

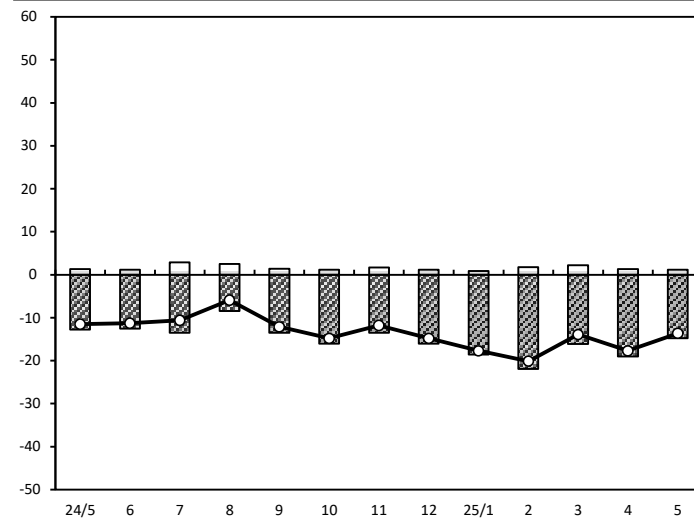
サービス業【クリーニング】（前年同月比）

売上額



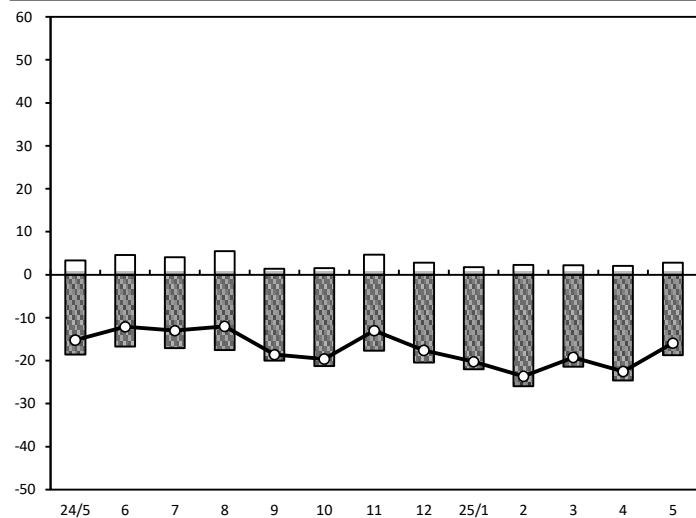
（年月）

資金繰り



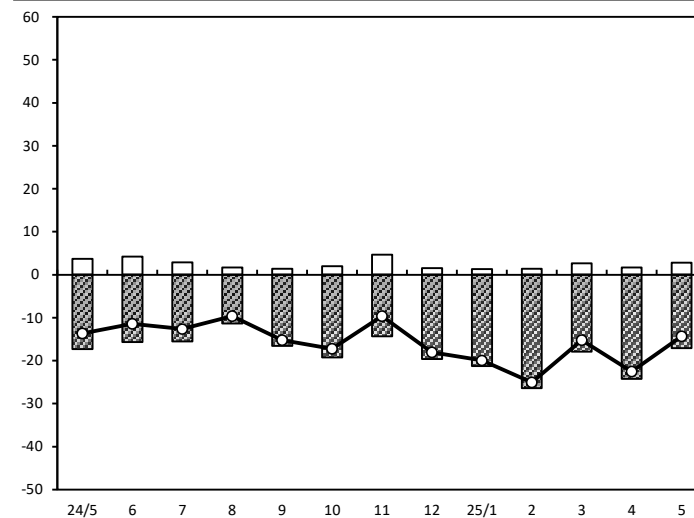
（年月）

採算



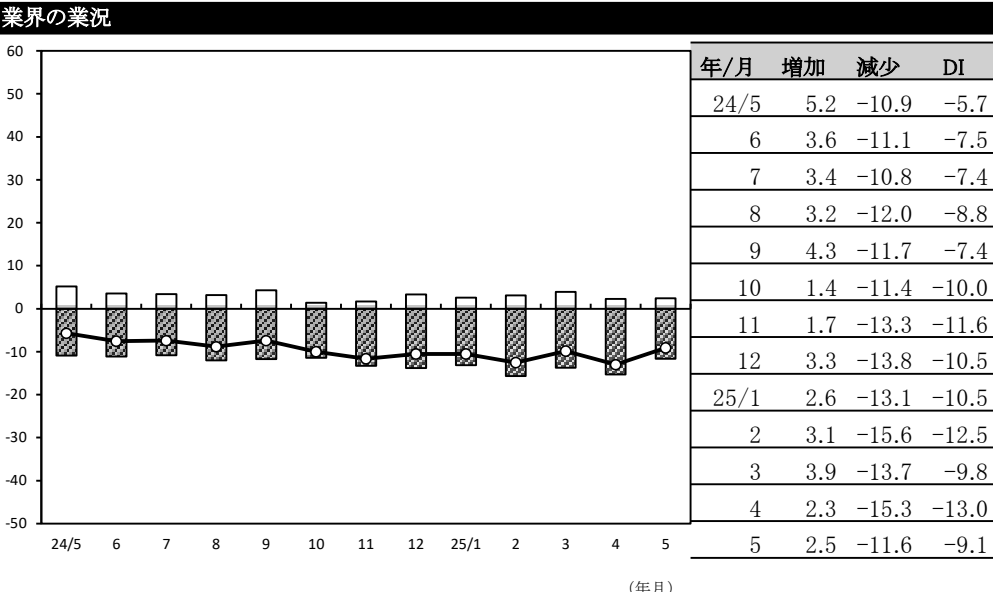
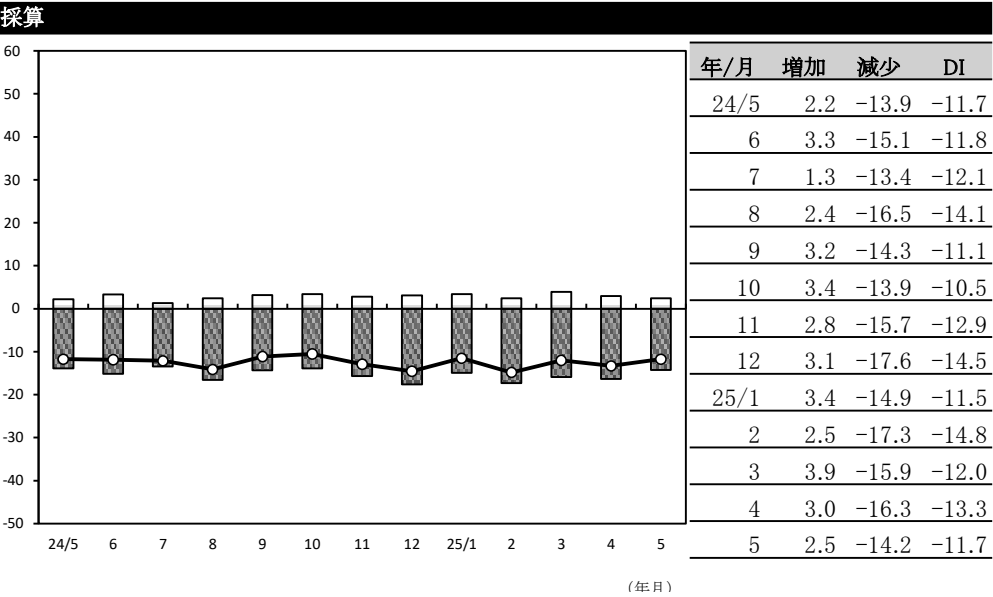
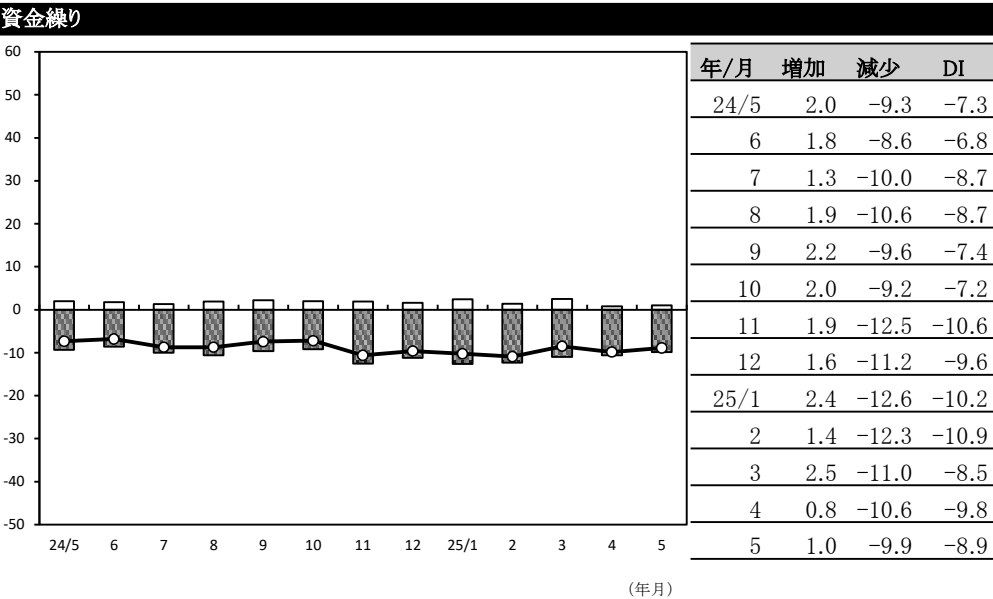
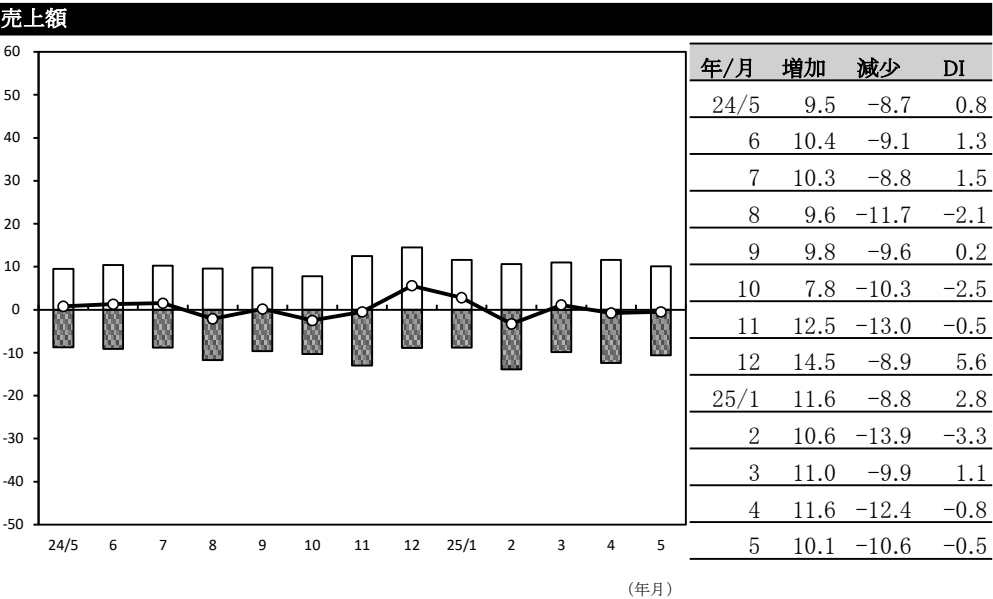
（年月）

業界の業況



（年月）

サービス業【理・美容】（前年同月比）



小規模企業景気動向調査(5月期)における商工会経営指導員の主なコメント

*コメントについては、経営指導員回答の原文を掲載。

1. 景気全般

<改善傾向を示すコメント>

今回の調査対象とした事業者の多くについては、景気が好転しているという印象を受けた。一方で、採算性が悪化している事業者も一定数見受けられたため、継続して商工会にて支援を行っていききたい。
(茨城県取手市商工会)

ゴールデンウィークにより観光や小売業者が好転傾向である。

(新潟県朝日商工会)

夏に向けた準備として、キャンペーンを検討している事業所が多くみられる。値上げ疲れの消費者の購買意欲がこれ以上減らないような企業努力が必要になってきていると考える事業所が多く、補助金の活用で作業効率の向上を図ろうとしている、といった相談が増えた。

(三重県伊勢小俣町商工会)

ゴールデンウィークもあり、業種にもよるが景気が回復している印象を受けた。物価高騰による仕入れ価格の上昇もあるが、価格転嫁がうまく出来ていない事業所も多い。プラスアルファの消費を促す工夫が求められている。

(鳥取県琴浦町商工会)

繁忙期と閑散期の差は大きいものの全体的に入込客が増加しており観光関連業種を中心に景況感は上向いている。

(鹿児島県あまみ商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

物価高騰の高止まりの影響か仕入れの多い業種は影響を受けている。

(青森県野辺地町商工会)

総じて大幅な減少に関するコメントは少なかったが、下請け受注量の減少や同業他社の廃業による影響など、比較的にも環境の悪化が示唆されている。

(宮城県栗原南部商工会 瀬峰支所)

何と言っても米穀の価格高騰に振り回された月であった。食に関しては、あらゆる企業に直接的・間接的に影響が及ぶものなので、企業・個人共に消費の停滞が目立った。大型連休という好機ではあったが、消費者の節約志向が勝り、思うような売上・利益に結び付くことが難しい状況にあったようである。

(福島県会津美里町商工会)

物価高騰が長期化し、小規模事業者は適正な価格転嫁ができず困難な状況である。また後継者の不在や大型店舗の出店により廃業を検討する事業者も少なくない。

(東京都東大和市商工会)

景気全般は緩やかに回復しているものの、消費者物価の高止まりにより消費者マインドが弱含み、個人消費が伸び悩んでいます。先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が引き続き景気を下支えすると見込まれますが、米国の通商政策など外部環境の不透明感が下振れリスクとなっています。

(山梨県身延町商工会)

業種によって価格転嫁が追い付いているところと追い付いていないところが目立つ。物価高騰の影響で仕事量が薄い部分も多いため、何かしらの支援措置は必要になると考えられる。

(静岡県天竜商工会)

・トランプ関税、ウクライナ紛争、中東情勢の不安定化等により、世界的な景気の減速感があるなかで、日本は景気減速のなかにあるなかでも物価上昇が続いており、結果消費者の価格(と品質)に対する反応が一番敏感な国の一つになっている。(一般消費財への消費も、一番に抑えられている国でもある。)

・世界景気の先行き不透明感がより増す中で、事業者は安定した経営を営めることを、一番に望んでおられる。

・各事業者の一般経費のなかで、特に競争が激しい業種ほど、水道光熱費の事業全般に占める割合が高く、その部分への継続的支援がのぞまれている。

(滋賀県甲賀市商工会)

物価・人件費・制度変更による利益圧迫、市場縮小、高齢化、人手不足など厳しい環境下にある。一方、新規投資やネット活用、異分野連携への気運も着実に芽生え、“我慢から選択集中・共創へ”“デジタル活用による省力化”“小さな成功体験積み重ね志向”へ舵を切ろうという空気感が広まりつつある。

(京都府福知山市商工会)

トランプ関税による、取引先のリスク管理で、大手の仕事発注量を上流で囲い込んでおり、下請けのtear1、tear2まで仕事の量としては減少が予想され景況感は厳しい。

(広島県黒瀬商工会)

物価高騰とそれに伴う消費の低迷、人手不足、賃金上昇等、小規模事業者にとっては経営を圧迫する要因が山積しており、廃業の増加や事業承継にも影響を与えていると思われる。明るい見通しが持てず、地域中小企業が活気を失わないよう、国や政府等による支援施策等がより求められていると思います。

(福岡県岡垣町商工会)

2. 製造業

<改善傾向を示すコメント>

原材料、エネルギー高騰に伴う、価格転嫁は概ねできている。業況も安定してきた。

(埼玉県北本市商工会)

食品製造業で見ると、観光客は大阪万博に行っているの、県内は減少しているように思われる。ただし、大阪、関西向けの販売は好調である。

(石川県美川商工会)

コロナ禍による影響は徐々に薄れ、受注の回復傾向が見られる。特に個人消費の持ち直しとともに、購買意欲が徐々に活性化し、一部業種では新規受注や見積依頼が増加している。ただし、原材料価格の高止まりや人手不足といった構造的な課題は依然として残っており、全体的な回復には時間を要する見通しである。

(岐阜県大垣市商工会)

船舶内装工事業者として造船業の末端に位置しているが、世界的な船舶の需要増により、バルクキャリア(ばら積み貨物船)を主力にしている大島造船所・名村造船所は船舶の建造量が毎年少しずつ増えている。また、三菱造船下関では防衛予算増をうけ、防衛庁・海上保安庁の艦船の建造が続いており、また、新日本海フェリーが2隻建造されている。これは2050年カーボンニュートラルに向けた取り組みとも考えられる。これにより2025年売上が大幅増となる見込みである。材料費、諸費用が高止まりしている中で如何に効率を高め利益を伸ばしていくか創意工夫が求められる。

(福岡県筑紫野市商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

食料品製造業関連の事業者は、物価高騰の影響のため仕入単価が上昇し、採算に影響が見られる。業界の業況は不変としているが、悪い状況での維持である。

(北海道新ひだか町商工会)

食料品製造業関連の事業者は、大型連休は天候のよくない日が多く低調な印象であった。またこの1ヶ月の気温も夏日に届かない日が多く、季節商品への切り替えが難しい状態だった。施設などの納品数量が人口減少による影響が緩やかな下降から、下げ幅が大きくなってきた印象を受けた。繊維工業関連の事業者は、5月は仕事が薄い時期。月18日稼働。従業員1名あたり売上高に換算すると、繁忙期よりもこの時期の方が単価高い。繁忙期よりも80万円ほど人件費が浮く。入替などあるが、外国人雇用も4~5人が常にいる状況。寮があるのが強み。機械金属製造業関連の事業者は、平日に休業日を設けて対応している。受注回復の兆しが見えない。

(秋田県かづの商工会)

菓子製造業:物価高疲れにて消費意欲減退傾向。機械製造業:仕入企業より販売個数のロット調整により、纏まった原材料の購入でない場合に限り追加料金が発生する旨の通知あり。機械試作がメインとしての事業のため、小ロットでないとい採算が合わず納入先の再検討を迫られている。

(山形県南陽市商工会)

海外環境の変化や関税不安も重なり売上が減少している。原材料やエネルギー費・為替影響で仕入単価が上昇し、価格転嫁が追いつかず採算はやや悪化、資金繰りもやや厳しい状況。

(栃木県那珂川町商工会)

制御盤等製造業者について、受注(見積)から納品まで6カ月程度要するが、その間に仕入価格が想定以上に高騰し、採算が悪化している。また、材料仕入時期も不安定で稼働に影響が出ている。

(福井県福井東商工会)

自動車シート製造業は、国内シェアのため、トランプ関税の影響はなし。また、プラスチック成型においても、現在関税の影響なし。新たな取引先の開拓に向け、前向きに取り組んでいる状況である。

(愛知県稲武商工会)

金属製造業では関税の影響で自動車部品の国内生産の内示が大きく減少している。加工賃の転嫁については、4割程度しか出来ておらず、採算が悪化している。

(大阪府羽曳野市商工会)

・鉄工業では、既存の事業だけでなく新分野に進出して売上拡大を図っている事業者は徐々に売上を増加している。

・被服製造業では、仕入の高騰や設備の老朽化によるトラブルで売上減少と利益縮小に陥っている。

(香川県高松市中央商工会)

食品製造業では各種物価高騰に価格転嫁が追いつかないといった声が聞かれる。

(島根県石見商工会)

補助金制度の影響か、新規事業への着手に対する興味を耳にするようになった。採算性の検討に沿った事業計画策定が求められる。

(山口県山口県央商工会 秋穂支所)

製造原価に合わせて価格設定すると高く売れない為、効率よく生産性を高めていく必要があるが、厳しい状態が続いているのが現状です。

(徳島県上勝町商工会)

3. 建設業

<改善傾向を示すコメント>

全体的に好転していると感じる。売上・利益ともに出ている事業者が増えている

(岩手県岩手町商工会)

人手不足のため仕事の引き合いがあってもすぐに対応できない状況が続いている。大規模リゾート開発計画が公表されてから、外国人や他地域からの不動産取得の動きが一層活発になっており、中古の建物の改築・改装の仕事が多い。

(新潟県妙高市商工会)

材料費は高騰しているものの、天候にも恵まれ作業がスムーズに行えた月であった。昨年は、仕入れ値の高騰に苦戦したが、今年度同月は大きな変動もなく予算通りに作業が行えている。

(三重県伊勢小俣町商工会)

管轄内企業においてはTSMC関連(移住者住宅、アパート)の建設が増加しており、これに伴う業況は良好な傾向にある。従前においては資材の高騰により、特に下請け事業者については資金繰りに困窮することも多かったが、徐々に元請企業の価格転嫁対応が追い付いてきている印象である。

(熊本県熊本市託麻商工会)

受注工事も多く、業界の業況としても好転傾向にある。資材の高騰や人件費など負担が増加しているものの、価格転嫁できている事業所もある。梅雨時期に入り、工期の長期化なども心配されたが、想定以上に雨の日が少なく、影響も最小限である。

(鹿児島県知名町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

公共工事や解体工事が多くあるが、人手不足の影響から外注に頼るしかなく、利益確保がままならない状況である。

(秋田県白神八峰商工会)

建設業については年度替わりのはざままで受注が少ない状況である。水力発電や送電線の鉄塔等の定期改修工事が行われており関連業種は受注がある。

(群馬県しづかわ商工会)

建設業者は、受注は増加傾向にあるが、仕入れ単価等の経費が増加しているため、先行きが悪い様子。

(神奈川県小田原市橘商工会)

建築業においては、住宅の修繕やリフォームなど復興需要は依然として高いものの、建築資材や人件費の高騰から、受注はしても収益には結びついていない状況である。

(石川県富来商工会)

住宅・リフォーム関連の事業者は、コロナの影響が落ち着いたことによる購買意欲の回復や住宅需要の持ち直しのため、受注が徐々に増加傾向になっている。一方で、資材価格の高止まりや職人不足といった課題も依然として残っており、利益確保には引き続き工夫が求められている。

(岐阜県大垣市商工会)

エクステリアの業者は増えてきているが、廃業者も増えてきている印象。原材料価格の上昇により利益率が減少傾向にあり、どの業者も景気が良い話は聞かない。

(静岡県吉田町商工会)

建設業では、売上高がやや減少し、仕入単価の上昇も重なったことで、採算はやや悪化した。資金繰りもやや厳しさを増しており、業界全体としてもやや悪化傾向にある。特に、下請け業者の人件費が上昇している一方で、元請側が価格転嫁を十分に行えない状況が続いており、利幅の圧迫が顕著となっている。コスト上昇への対応が困難な中、今後の採算確保に不安を残す結果となっている。

(兵庫県丹波市商工会)

売上の変動が大きく、利益がある時もあればそうでない時もある。原材料価格が高止まりしているため、これまで以上に「儲かる仕事・儲からない仕事」がはっきりするようになった。地域密着企業が多い中、儲からない仕事を切って良いものか悩む事業者もいる。加えて慢性的な人手不足で、将来の技術者確保に不安が大きい。

(岡山県真庭商工会)

受注依頼は横ばいからやや好調ながら、マンパワー不足により受注可能件数が減少しており、結果的に外注依存による収益の悪化が露呈している企業も見受けられた。業界全体で人手不足は慢性化しており、利益率を考慮した選別受注の他、時代に見合った対応策も必要と感じた。

(香川県さぬき市商工会 寒川支所)

建設業においては、公共事業の発注件数が減少しており、売上は減少傾向にある。加えて、民間工事においても価格交渉が難航し、契約に至らない案件が増加している。

(長崎県松浦市福鷹商工会)

公共工事等の受注で、売上増加の見込み。件数が多く外注費の増加が懸念。人材採用を急ぎたい。

(沖縄県金武町商工会)

4. 小売業

<改善傾向を示すコメント>

生花小売業においては、母の日のプレゼントによる需要が増え、売上が増加した。電器屋においては、季節柄エアコンの取付が増えてきており、今後も増えていくと考えられる。

(宮城県遠田商工会)

中古車販売業者は、ネット注文やオークション代行による販売台数が増加傾向にあり、売上が堅調に推移している。

(茨城県取手市商工会)

気温が上がってくるにつれ、衣替え等により衣料品の購入が目立つ。特に、年々気温が上昇していることや暑くなるのが早いこともあり、クールタイプの服やより涼しさを感じる服に需要がある。タオルや経口補水液等の体への対策にを入念にされるお客様が増えたことから売り上げが伸びている。

(三重県伊勢小俣町商工会)

食料品小売業においては、消費者の買い控えも徐々に収まり売上は増加傾向。仕入も上がり続けているため採算は変わらない。卸売も行なう小売業者は、同業他社の廃業等で取引が増加したところもあった。また米価高騰で、今まで問い合わせのなかった県外から取引の連絡があった。

(岡山県真庭商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

食料品小売業、耐久消費財関連の事業者は、物価高騰の影響のため仕入単価が上昇し、採算に影響が見られる。

(北海道新ひだか町商工会)

大手小売店の出店等の構造的な問題で売り上げ・利益ともに減少している

(岩手県岩手町商工会)

消費者の節約志向の高まりにより、消費は停滞している状況にある。特に米穀の価格高騰が高止まりしており、一般消費者が手を出せる範囲を超えて消費に結びつかない状況。備蓄米の流通に期待感がありつつも、地方に回ってくるのがいつになるのか懸念している事業者が多い。

(福島県会津美里町商工会)

価格転嫁には積極的に取り組む一方で、値上げによる消費者の買い控えが目立つ。また、人手不足や人件費の高騰、大型店舗の台頭等、今後の経営における不安材料が山積している。

(群馬県富士見商工会)

事務用品等小売業の事業者では卸元からの値上げが継続して発生している。原価の関係で価格転嫁を依頼するものの、発注・購入控えに繋がっており、資金繰りが悪化している。

(東京都福生市商工会)

地域の少子高齢化、人口減少が徐々に経営に悪影響を及ぼしている。子供は年々少なくなっており、学生服などの販売も下落傾向が続いている。今後は廃業するか悩んでいる店舗も多い。すぐにできる対策としては、給与所得を得られるように警備保障の待機人員などしている。

(福井県南越前町商工会)

生活関連費の多くが高騰しているため、消費者の節約志向に繋がり、また仕入金額の高騰もあり利益確保に繋がっていない。

(山梨県昭和町商工会)

小売店は、量販店や大型スーパーよりも価格が高いため、色々なものが値上がりする中、消費者は安さを重視し、遠いスーパーや量販店に足を延ばしてしまうため、売上に影響が出ている状況にある。

(愛知県稲武商工会)

仕入コスト上昇と来店数減少で利益率悪化。ネット仕入れへのシフトや新商材開拓など攻めの姿勢も一部見られるが、多くは管理負担増(インボイス対応等)への悲鳴と人手不足感。

(京都府福知山市商工会)

小売業全体では、物価上昇の影響が消費行動に強く表れ、厳しさが続く状況となっている。特に衣料品や食料品小売業では、仕入単価の上昇に対し販売価格への転嫁が進まず、採算の悪化や資金繰りの厳しさが見られる。衣料品については、コロナ禍に見られた地元消費の一時的な盛り上がりも薄れ、当時よりも販売状況が悪化しているとの声もある。一方で、耐久消費財関連では、中古車市場の活況や新車不足を背景に売上が増加し、採算もやや好転するなど、比較的明るい動きも見られた。とはいえ、多くの分野でコスト上昇が続いており、全体としては慎重な見通しが続いている。

(兵庫県丹波市商工会)

食料品小売業では、消費者(特に高齢者)が米高騰の影響で他の食料品購入に慎重姿勢。キャッシュレス対応も進んでおり、収益性が悪化している。小規模事業者は特に顕著に表れている。耐久消費財(自動車販売業)では、車両仕入金額も増加しているが、店頭での展示車両(リース)における費用も年々高くなり、資金繰りに影響を与えている。

(佐賀県多久市商工会)

お弁当製造小売業において、米の高騰と仕入困難により事業縮小を余儀なくされる事業者が出てきている。

(宮崎県国富町商工会)

5. サービス業

<改善傾向を示すコメント>

宿泊関連事業者は、昨年と比べて売上が全体的に増加している。グリーンシーズンの営業に向けて準備を行っている。

(長野県小谷村商工会)

旅館・宿泊においては、大規模イベントの開催で全国から観光客を誘致し、宿泊需要と売上の拡大につながった。稼働率が上がり、客単価の向上によって収益性、採算性が高まった。一方、スタッフの確保は依然厳しく、調理やフロント業務に制限を設ける施設も見られる。洗濯業においては、値上げによる客離れ等を懸念していたが、そこまで深刻な影響は出ていない。むしろ、販促の実施により売上利益は伸びている。課題としては、設備の老朽化が上げられる。理美容業においては、仕入れ単価や光熱費が上昇するも、全体的に業況は好転している。経営上の問題点として、店舗の狭さ、老朽化・仕入れ単価の上昇・従業員の確保難を挙げる先が多い。

(鳥取県鳥取市西商工会)

旅館・飲食関連を中心としたサービス業は、5月のゴールデンウィーク期間中は概ね天候にも恵まれ、日帰り観光客やツーリング客の増加により、客数・客単価ともに上昇し、売上は堅調に推移している。一方で、仕入れ単価をはじめとする諸経費の上昇が続いており、採算面ではやや厳しさがみられる。

(長崎県松浦市福鷹商工会)

テーマパーク開業への期待感の高まりから、先の予約が増加している。GW期間中もフル回転しており、夏のシーズンに向けていい流れを感じる。

(沖縄県金武町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

理美容業者は、売上はそれほど変わらないが、用品・商品等価格は下がっていないので、利益率は悪い。お客様の来客間隔が伸びているので、売上・利益ともに減少している。

(青森県今別町商工会)

宿泊関連の事業者は一般の観光客は横ばいだがインバウンド関連はやや増えたとのこと。仕入コストは上昇傾向にある。価格転嫁が難しい状況が続く中、採算性はやや悪化し利益が圧迫されている。資金繰りについては大幅な悪化は見られないものの、過当競争や開業の増加により余裕は少なく、業界全体ではやや悪化の雰囲気漂っている。

(栃木県那珂川町商工会)

企業向けの民泊業者などが進出し、活性化が図られているが、今後の先行きは不透明な部分も多い。洗濯および理美容は、経費の上昇により単価も上昇しているといった状況である。

(千葉県香取市商工会)

クリーニング業においても水道代等の諸経費の負担がかかり、採算性が悪化している。利用客層も既存客が大半であり、新規顧客の獲得も課題となっている。

(東京都福生市商工会)

クリーニング店の事業所は、商圈内にコインランドリーが増加した影響で、単価の高い大物衣類の需要が減少している。さらに、物価上昇の影響を受け、衣類関連への支出額が減ったと感じており、「高価なものを購入して大切に着る」から、「安価なもので汚れたら捨てる」へとライフスタイルも変化している。

(富山県射水市商工会)

宿泊については、ゴールデンウィークもあり好転したが、米や野菜の高騰も続いており、利益率は悪化傾向である。

(山梨県北杜市商工会)

・洗濯業については、共働きも増えてきていて、若い世代を中心とした洗濯の外注比率は高い。各種クリーニングに対する潜在ニーズも非常に高く、新規参入事業者も非常に多い。一方で、油脂類、光熱費を中心とした原価が大幅に上がっていても、業種柄消費者の品質と価格に対するニーズは非常に厳しく、値上げもなかなかしにくい状況のなかで、業界内での競争も非常に激しい。

・理美容業については、水道光熱費の値上がりは事業の売上に占める割合として高く、その分を売価に価格転嫁を図ってはいるものの、業界としては新規参入の事業所も多く、競争は激しい。

(滋賀県甲賀市商工会)

客単価は変更できないので仕入コストの増加が採算を悪化傾向に流れている。

(奈良県河合町商工会)

理美容業では、顧客数の減少が続いている。自身の代で事業を廃業しようと考えている事業者も多い。

(岡山県阿哲商工会)

価格転嫁での対応は頭打ちが近い。別方法による利益率の改善が課題。

(山口県山口県央商工会 秋穂支所)

ゴールデンウィークが平日に挟まれるかたちでまとまっていなかったためか、期待していたほどの宿泊数ではなかった。連休期間の値上げを避けた、連休後の宿泊が見受けられた。(宿泊業)

人口減少・顧客の高齢化で売上が伸び悩む(理美容業)。

(鹿児島県かのや市商工会)